025433-000-4

特26-904

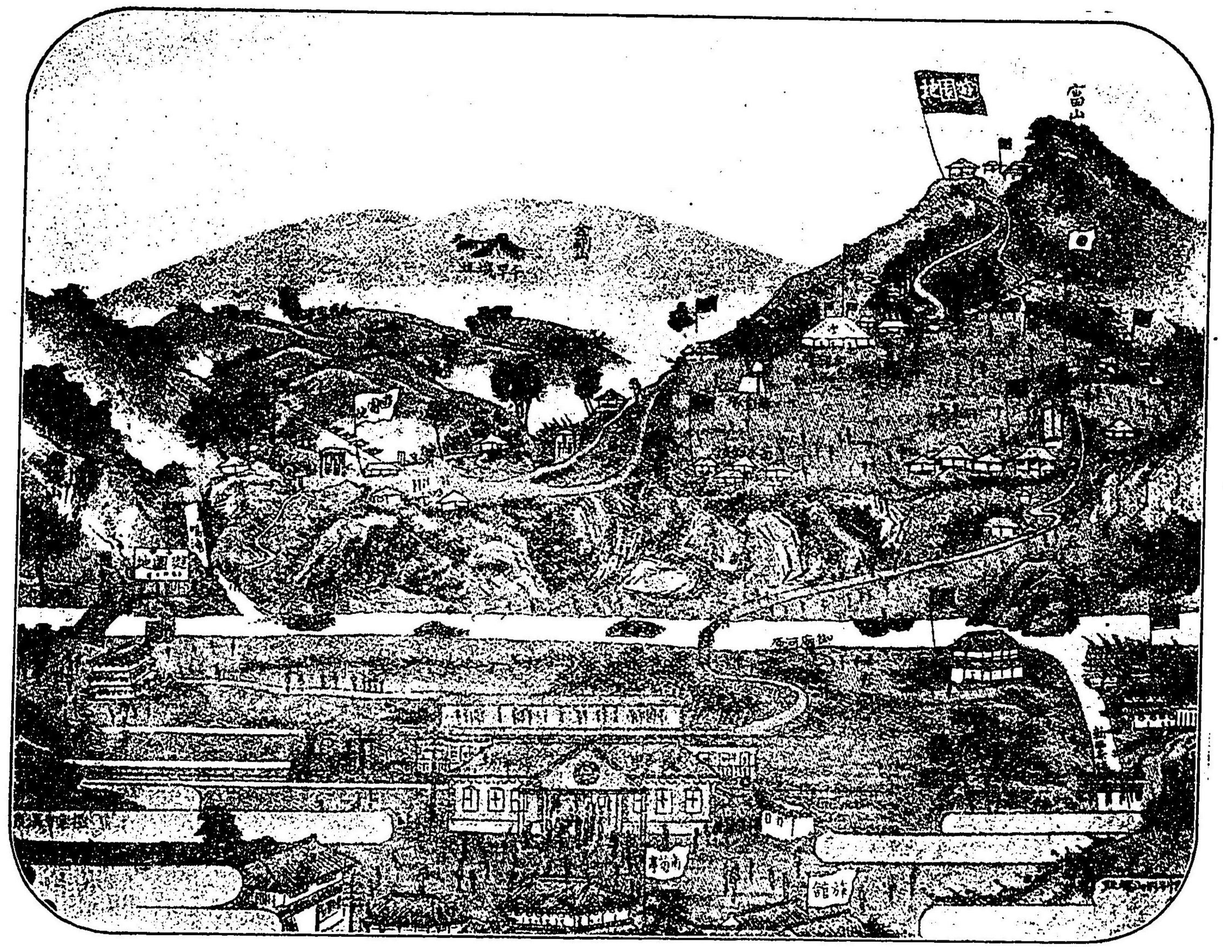
高野登山鉄道沿線遊覧案内

筏　六郎／編

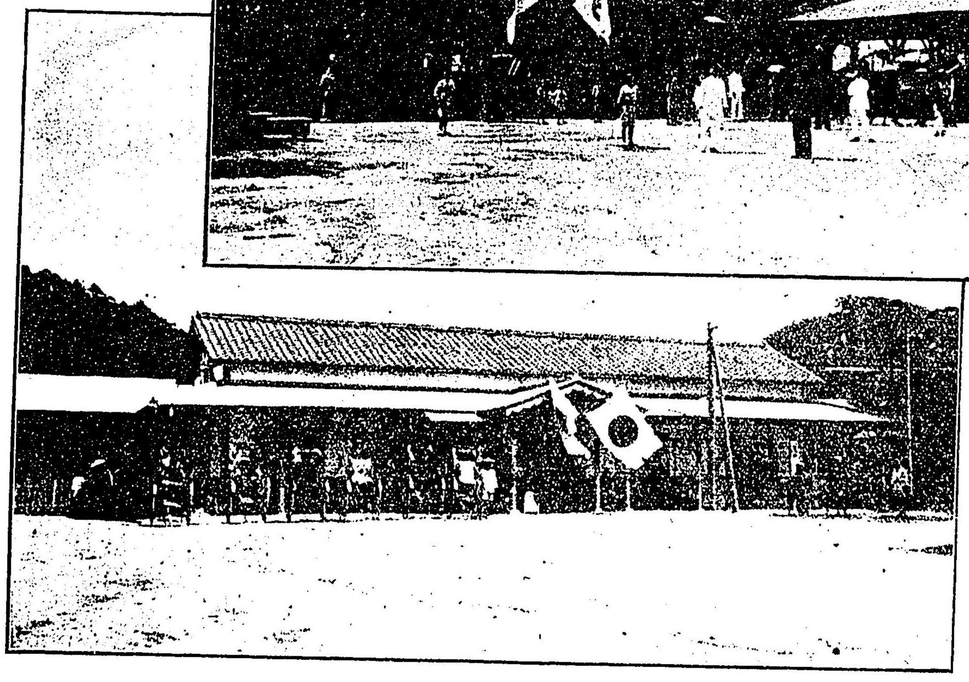
M44

ADC-2883

高野登山鐵道長野遊園地全景



高野登山鐵道汐見橋停車場

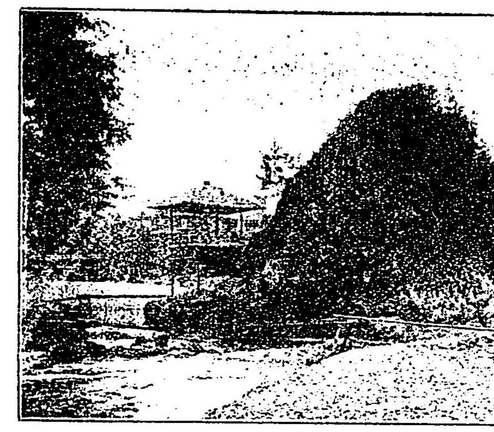


高野登山鐵道長野停車場

長野遊園長者の瀧ト諸越橋

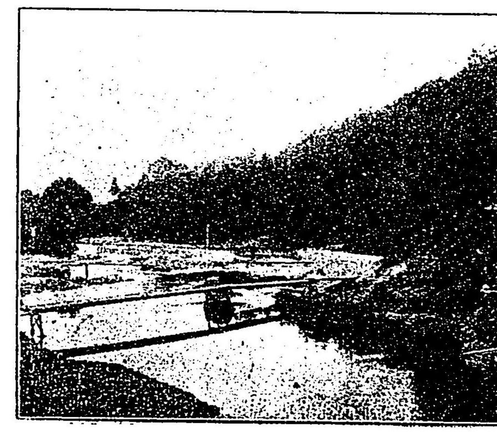
長野園遊長者の瀧

長野遊園楠正義卿駒駐ノ松



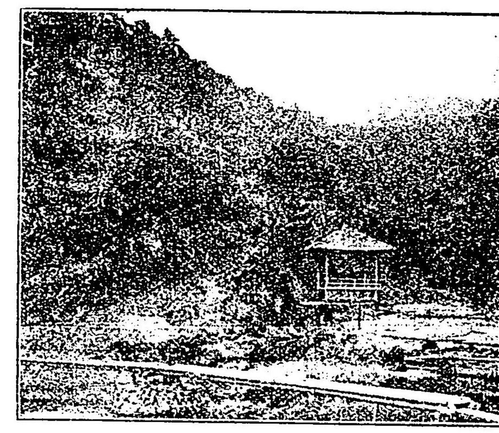
長野遊園行者岩

長野遊園ノ鯉つかみ



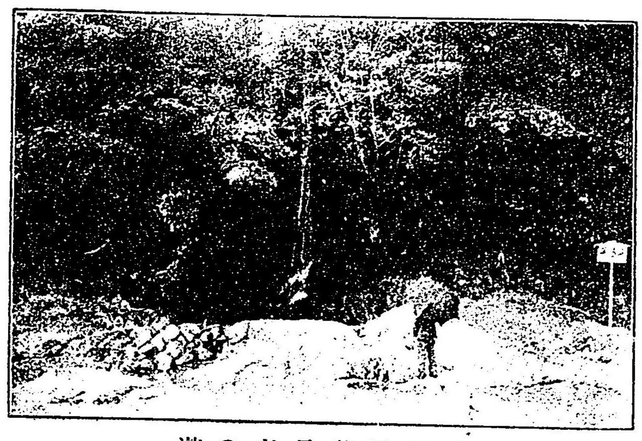
長野遊園石川ノ清流

長野遊園附近ノ松茸山



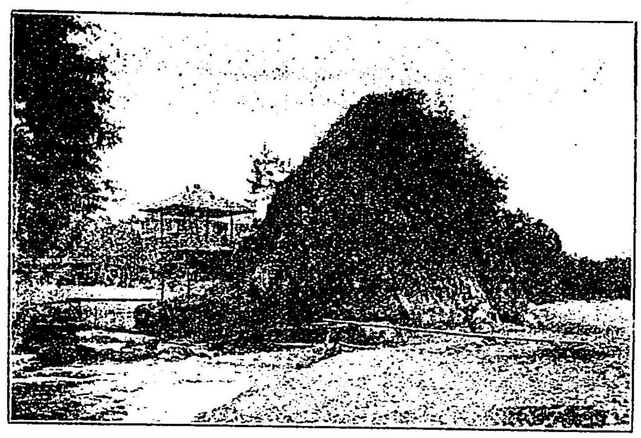
長野遊園行者岩ヨリ上流ヲ望ム

長野遊園長者の滝ト諸越橋



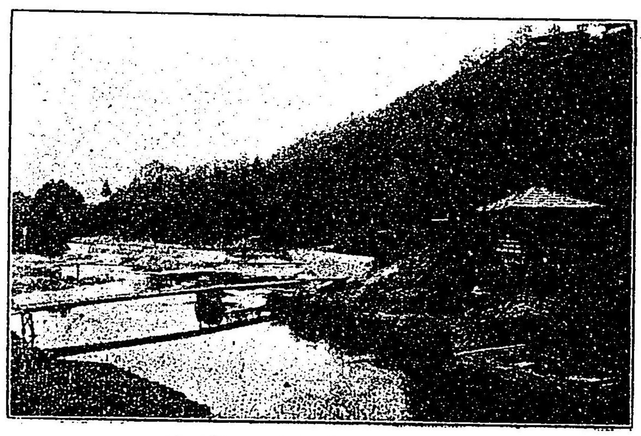
長野園遊長者の滝

長野遊園楠正成駒駐ノ松



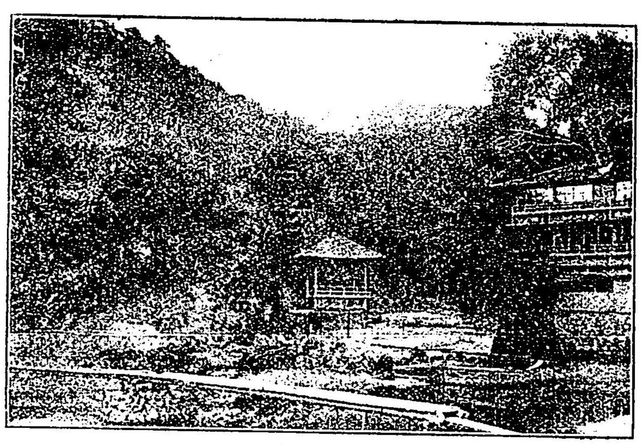
長野遊園行者岩

長野遊園ノ鯉つかみ



長野遊園石川ノ清流

長野遊園附近ノ松茸山



長野遊園行者岩ヨリ上流ヲ望ム

特26
904

高野登山鐵道沿線遊覽案内

咬菜社編

15. 1. 16

○汐見橋停車場

□高野登山鐵道線起點にして是れより攝河泉の三國を貫きて、現在終點長野驛に到るもの、之れ本鐵道の第一期線にして、第二期線は橋本迄延長し電車併用となす事に決定し、目下工事中なり、今當驛より市内電鐵、巡航船の連絡を列擧すれば即ち

□市營電車停留所は、當停車場前汐見橋を渡り北へ一直線に三丁程にて、鰹座橋に到りて乘車するを最も便利とす

□巡航船汐見橋より乘船すれば市内何れも便利の處へ上陸するを得るなり當停車場附近著名なる處は、赤手拭稻荷、湊町停車場、道頓堀等外數多あり

○木津川停車場

□木津川、驛の西に流れたる大阪灣南部の要所にして、河底深き故安治川に入

船しかたき濫船、帆船及筏等は總て此の川に入津するを常とす、故に當停車場附近船舶に關する營業は繁榮にして、檣林河に滿ち、來去の船舶櫓聲船唄の聲晝夜絶へず

口蜆茶屋、東岸の河口明石屋新田にあり、蜆汁を以て其名高し

口千本松、蜆茶屋の上河口に達する數町の間堤防上の松林にして、風景佳絶なり中秋三五夜松間の明月を賞する客亦頗る多し

○安部野停車場

口天下茶屋　の名稱當驛北邊一部落の總稱にして、此地は豐公堺政所住吉參拜の節、往返共當村津田氏の宅に休憩せられたるを以て、天下茶屋の名あり、村社にて天滿宮を祀れる森あり、此森を紹鷗の森と云ふ、茶人紹鷗幽棲の地なり、又此の地、林源十郎復仇の地として天下茶屋の名高し

口安部野神社、驛の高丘にあり、別格官幣社、祭神は南朝の忠臣北畠親房、同顯家兩卿の靈を祀れり、

口帝塚山、驛の南側にある高阜にして一見古墳の形を存す、明治卅一年秋攝河泉大演習の際　天子此處に登臨統御あらせ玉ひし地なり

口聖天山、天下茶屋の北端東方の丘上にあり、本尊歡喜天を安置す、境内松樹翁鬱として天に聳へ、閑雅幽邃の地なり、徒然草の作者兼好法師の舊蹟は此の山に連續したる丸山と云ふ地にあり

○住吉東停車場

口住吉神社　當社は官幣大社にして、津の國一の宮なり、祭神は一の神殿は底筒男命、二の神殿は中筒男命、三の神殿は表筒男命、四の神殿は神功皇后にして、皇后攝政十一年辛卯四月廿三日當社を奉祀せられたりと、故に毎月卯の日は參詣者最とも多し、且例年卯月上卯の日には卯の葉神事ありて最も盛大なり、境内の有名なるは反橋と高燈籠にして這は他に比類なし、其他名所、舊蹟數多あれ共之を略す

口哀愍寺（ちざり地藏）住吉東停車場より西一丁上住吉青蓮寺町にあり、覆護山と稱し、百萬遍知恩寺末、永祿年中靈譽玉念上人の開基にして、本尊阿彌陀佛立像は運慶の作なり（什寶として上人自畫の座像あり）寺内に地藏尊を安置す、本尊は慈覺大師の作にして、俗にちぎり地藏尊と稱し、靈驗顯著なるを以

つて坊間に喧傳せられ、道俗の信仰頗る篤く、毎年の地藏法會、毎月の緣日には、近鄕は勿論遠く、京阪神信徒の參詣踵を接すと云ふ

境域は廣からざれども、境内、庭園の手入常に遺憾なく行届き、又茶室の瀟洒なる風趣掬すべきものあり

年中行事

二月　節分會　二月十九日　御忌會
四月八日　誕生會　八月廿日　大施餓鬼
八月廿五日　地藏會　十月十夜會
十二月廿四日　佛名會　春秋二季　彼岸法會
毎月廿四日　緣日

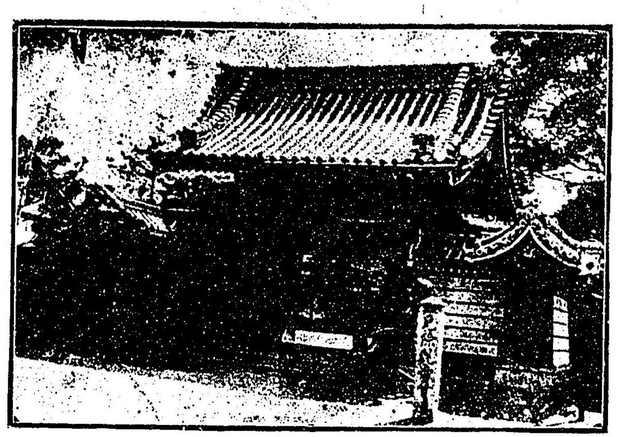
口澤の口大黒天　住吉停車場より南四丁「あびこ口」にあり、日蓮宗にして妙長山松寶寺と稱し、當山に安置しある大黒天は宗祖日蓮上人の作にして、大阪城代太田備中守の勸請せし、妙法不思議の靈像なり、其後日明上人の代に到り、延享元年（甲子歲）當尊を江戸に於て開帳しけるに老若男女群集し參詣する者頗る多かりしと云ふ、此時將軍家より特に御紋付の厨子御戸帳の寄進あり、又天明六年大阪城代阿部能登守當靈像の由來を聞かれ、大ひ

吾彦山不動院（眞言宗山階派）
大聖寺

本尊觀世音　龍宮出現之尊像

聖武天皇勅願所

開基聖德太子



我孫子觀音の山門

△寶物

聖武天皇の御寄附綴の錦（隨一の靈寶）

小野篁作地藏尊（世に云ふ兒育の地藏尊）

龍王の右掌（本尊觀世音出現の砌龍王自ら嚙切て行基菩薩に附與せしものなり）

年中行事

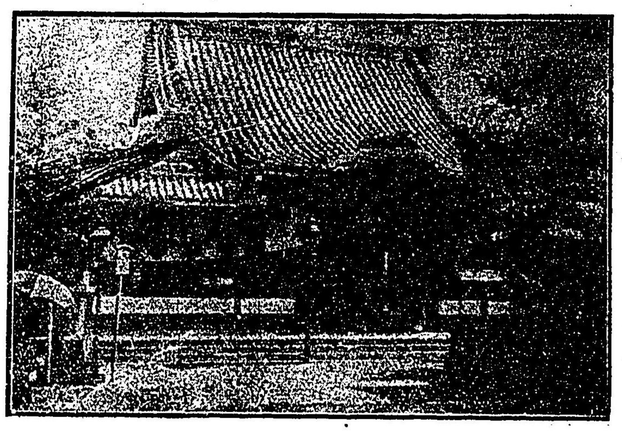
一月一日ヨリ一週間　正月祈禱

二月一日ヨリ一週間　節分大祈禱

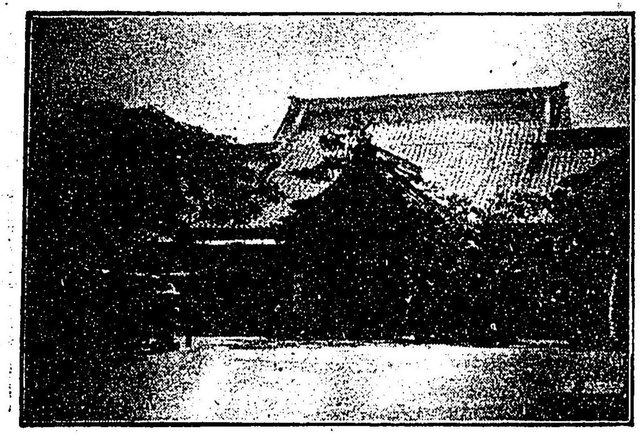
四月十八日　春季法會

九月十八日　秋季法會

每月十七日、十八日　緣日



我孫子觀音本堂



我孫子觀音の庫裡

に信仰され摩訶迦羅天と眞筆の額及石燈籠、唐純子の打敗松樹七本等寄附せられたり、而かも七本の松樹は今尚苒々として繁茂し、松寶寺の名と共に彌高く開へつゝあり、されば寶鏡院の宮家にも御祈願あらせられ、滿願の御時大黒天御眞筆の額外數品を寄せられたり、斯る貴人高位の御歸依あるは是れ偏に靈德あらたかなるが故なり、故に隨喜渇仰の信徒多く晝夜參詣の絶ゆる事なし

□あびこ觀音　住吉東停車場より東へ十五丁東成郡吾彦村にあり、眞言宗山階派にして、聖武天皇の勅願所なり、吾彦山大聖寺不動院と號す、本尊厄除聖觀世音菩薩は龍宮出現の靈像なり、當山は聖德太子の開創し賜ふ處にして、當時寺域廣漠にして塔中七ケ院を有せしが、後幾多の變遷を經て弘法大師來て其中之坊を再興し、掛錫し玉ふこと數年間、圓照大德に附して住持せしめ賜ひしより、今に至る迄五十七世に及べり、本尊觀世音菩薩は龍宮出現の靈像にして其由來を尋ぬるに、聖武帝御寶齡四十二の厄に罹らせられ、玉體不豫にして御惱頻りなりしかば、帝一心に神佛を祈り賜ひしに、天平十四年二月初午の夜、空中に聲あり告て曰く泉州水間の瀧に龍神あり、常に大悲の尊像を守護す、此の靈像を得て祈願せば厄難乍まちに除くべしと、天皇急ぎ行基菩薩に勅して是を

免めしめ玉ふ、師直に水間の瀧に到り石上に持念する事三日三夜、其二の午の夜に水中より瀧王出現、右の手に一寸八分の觀世音を捧げ出て來り行基師に授けたり、師龍王に告て曰く今正に此尊像を得たり、然れども帝御疑あらば如何せん、且末代衆生の惑ひを除かん爲に予に一の証據を得せしめよと、茲に於て龍王觀音を捧げし掌を噛切て之を授けたり、師大に喜び堪へす急ぎ南都に登り、帝に奏し上る、帝深く信を凝し御祈願あるに、御惱忽ち平癒し玉ふ、帝大に叡感あり水間の山中に伽藍を建立し尊像を安置させ賜ふ、然るに應仁の兵火に罹り堂宇遂に烏有に歸したり、時に寺僧尊像及龍堂等を護持し、高野山聖無動院に逃れ後復東都赤羽根圓明院に安置す、然るに當山四十四代慶安年間盛長法印の代に、將軍家光公の歸仰する所となり、卽ち命により當山へ迎へ奉りしものなり、其靈驗の顯著なること世人の知る所、故に參詣の老若常に絕へず、殊に例年二月節分の如きは賽者海の如く群をなせり、境内に白龍の辨財天堂あり、寺域平坦にして庫裏の搆造頗る廣大、其の階上より展望すれば、金剛、葛城二子の諸巒、近くは大阪市幾萬の甍、林立の烟筒烟霞の裡に隱見し、芽海の半面は目睫の間にあり、其庭園の清楚なる又見るべきものあり

毎月十七日、十八日には臨時停車場を開始し參詣者の便利を計る、此停車場よりは東へ僅に六丁なり

○堺 東 停 車 場

堺市中　は驛の西部にして、和泉國北端泉北郡に屬す、市中百五十五ヶ町、東西十五丁、南北卅町にして、此の地は攝河泉の境界なるを以て堺の名あり、戸數一萬余、人口五萬余、其地勢は東は高野登山鐵道線路を隔てゝ三國耳原の丘陵を控へ大和河内の諸山を眺望し、西は茅渟の海に望み、南は高石、濱寺に接し、北は大和橋を界として住吉大阪と相接す、四方の景色頗る佳なり、名所舊蹟亦多く商工業共大阪に近きを以て大ゐに發達せり、此の地生産物の重なる物は造酒、段通、木綿、煉瓦、刃物、陶器、大寺餅等を最とす

口妙國寺　材木町東三丁にあり、廣普山と稱し日蓮宗の一本山にして、開基は日光上人なり境内大蘇鐵の古木を以て有名なり、其他什寶數多あり

口百舌鳥耳原北陵　常驛の東丘陵にて、反正天皇の御陵なり、南方に參拜所あり周圍二百五十間余、陵上青松枝を交へ、其間に櫻楓幹を連ね、之れを繞れる池水は常に漣波を漂へ、鳧鴨數百水藻をかついて遊泳し、風致頗る明媚、且

土地高燥なるを以て、堺市全景と、芽海の半面を一眸に斂め、最も景勝の地たり

□大仙陵　常驛南五町にあり、仁徳天皇の御陵地にして、境域の大なる事他に多く其の例を見ず、陵外堤防千三百間余、周圍の池は洋々として恰も湖の如し陵内雜樹繁茂し蓊鬱として、晝猶闇く參拜者をして、肅然襟を正さしむるものあり

□履仲天皇御陵　大仙陵より西南四丁にあり周圍の堤八百間余、山麓の回り六百間余、南の峯高サ十四間、北の峯高サ十六間上に翠松數株四時琴聲を弄す、周圍の芳草離々として幽靜なり、俗にこの山を稱して摺鉢山と云ふ

□長谷寺　停車場より西南五丁堺市宿院寺町にあり、當山は新義眞言宗大本山其外名勝としては、南宗寺、大安寺、祥雲寺（松の寺）、小林寺、寶珠院、紅谷庵、開口神社、高須稻荷、菅原神社、外に東西兩本願寺の別院等あり

大和長谷寺の支院にして、本尊十一面觀世音菩薩（佛工春日の作）は本山分身の靈像なれば、本山の名と共に世人の信仰頗る篤く、日々賽者の絶ゆる事なく又毎月の緣日の如きに至つては、門前參詣者を以て群をなし、其盛大なる事驚く計りなり

□方違神社　堺東停車場より東弐丁泉北郡向井村三國丘にあり、祭神は八十天萬魂神、神速進能男神、三筒男神、氣長足日雲命（神功皇后）の四座を奉齊す、崇神天皇八年十二月甲子、詔して物部大母呂隅足尼を遣し、此地に神籬を立て神速進能男を奉祭せられ、國内靜謐百姓安全を祈願をなさしめ給ひき、是當社の祈願所となれる始なり、神功皇后攝政二年三月三韓より凱旋せられし時、茅渟石津松原の里に御上陸ましまし、忍熊王の反亂なすを聞こしめし之を鎭定せんと議りたまふ、時に三筒男神の御敎ありければ、皇后神敎を奉じ當社の勝地に於て、神武天皇天神地祇を郊祭なし給ひし故事に倣ひ、躬親ら齊主となりたまひ、八十天萬魂神を奉祭せられ、皇運方忌災除を禱りつゝ南巡して、紀伊國に入らせられ武内宿禰及び群臣と共に議を決し、忍熊王を鎭定なし給ひぬ、因て皇后八十天萬魂神を方除災除の神と稱へ、當社に合祀せられ從五位下を授け給ひき、且神勅に從ひ住吉に神籬を樹て三筒男神を此地より遷齊なし給ひぬ、是れに因りて當社は攝津の住吉神社と其祭神同じき所以なり、其後應神天皇十三年當社に三筒男神及母后氣長足日雲命を合祀せられ、四座となし給ひ方違大依羅神社と稱號となし給ひぬ、仁明天皇承和十四年七月當社を官社となし給ひき

尋いて清和天皇貞觀元年正月從四位下に昇進なせり、當社は勅願所なるを以て
御歷代の天皇御撫物を賜ふ、依て明治維新に到るまで毎歲正月十五日朝廷へ大
麻地土芹葉の粽、嚴の眞菰等を獻納せり、斯る貴き神祇にましませば、方忌災
除の祈禱を渴仰し遠近より賽者常に絕ゆる事なし、當社祭典は、一月一日新年
祭、二月節分焚火祭、五月卅一日粽祭、六月三十日大秡式、十二月三十一日大
秡式を行ふ

口本成寺（日親上人の宿蹟）　當驛より西南六丁堺市寺地町にあり、登寶山と稱
し日蓮宗京都本性寺末なり、文安年中日新上人の開基にして之れ上人が南洲弘
通の道場なり、永享十一年上人立正治國論を著はし、時の將軍義敎を極諫す
るや、其激怒に觸れ在牢五百餘日此間慘刑日々に加り、氣息殆ど絕へんとする
事幾回なるを知らず、偶義敎の薨去するや赦され、其後播州に遊化す、文安元
年再び東條の法難を遁れ、當地に來り石を座とし大に法を說く、時に桔梗屋重
平なる者あり、宿緣の逐ふ所か大に上人に歸依し、我家に請して深く之に仕ふ
其後他の町民も上人の高德を慕ひ歸依する者日々多きを加ふるに及び、此處に
一宇を建立し登寶山本成寺と號す、今の堂宇卽ち是れなり、開山堂に安置しあ
る自作の像は長享二年上人臨終の期に望み、高足日祇上人を召し我齒を拔き且

曰く我肉附の齒に一期の巧德を納め汝に附屬す、依て我遺修の像に藏せよとて
示寂せり、之れ卽ち開山堂に安置しある、日本一體肉牙生御影像とて世人の
信仰頗る篤く、每月一日十七日の緣日（開帳日）には賽者殊に多く、平日にても
香火の絕ゆる事なし、尙每年五月十三日春季施餓鬼、十月十六日通夜大法會を
修行す

口百舌鳥八幡宮　當停車場より南十五丁泉北郡西百舌鳥村大字赤畑にあり、祭
神は應神天皇、配祀住吉大神、春日大神、八坂大神、末社に仁德天皇、大歲主
大神、市杵島姬命、菅原大神を鎭齊す、當社は欽明天皇の御宇八幡大神の靈託
によりて神殿を御陵（應神天皇の御陵）の東に創建せしもの卽ち是れなり、新築
集に二品深勝親王毛受の別宮に拜すとあるは、當社の事にて御歌に「民安く國
治まれと祈る哉人のひとより吾君のため」とあり、本殿、幣殿、拜殿、東華門
西華門、齊然として構造頗る宏麗なり、當社は元神宮寺にして社僧四十八ケ寺
社家三百六十人と數多の社寺領ありしものにして、今尙地名に殘れり、塚功皇
后三韓を征伏し給ひ、難波の濱に御船を着け御鋒を立て玉ふ（今に鋒阪と云ふ
處あり）其時武內大臣に仰られ給ふに、此邊に我身を留置くべき所なきやと、

大臣即ち處々を見立て、歸りて奏すらく、幾萬歳目出度所を見出し申候とて、此の百舌鳥の地を言上しければ、皇后御殿ありて此處に移り給ひしと傳ふ、當社例祭は毎年舊八月十五日にして、這は神功皇后夷の軍兵を滅し給ひしを恤み玉ひて、放生會を行はれしを起因として、往昔より此の日を以て觀月の宴を開き年中の大祭を行ふ、尚毎月一日、十五日を以て月次祭を行ふ、大祭の日は近縣よりの參詣者頗る多く、當日高野登山鐵道にては臨時百舌鳥停車場を開始し參拜者の便に供すと云ふ

此地往昔より奇風の習慣あり、毎年一月一日より三日間氏子一般肉食を斷ち、現今に到るも猶犯すものなし

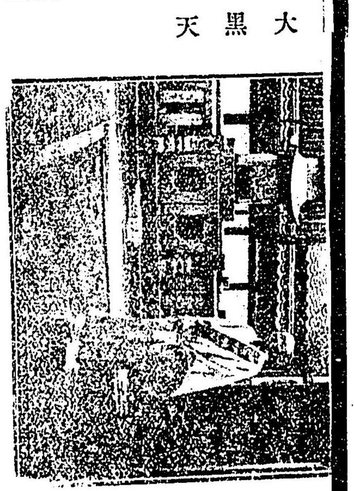
社域數千坪四境鮮苔滑かに、老松古杉翁鬱として天に參し、奇姿妙趣頗る面白し、社殿の構造壯麗にして神威灼然、在すが如く襲者をして、肅然襟を正さし、むるものあり、境内別に池を穿ちて蓮を栽ゑ、中洲に辨財天を祀れり

口御廟　當社より西一丁の處にあり、往昔より御廟と唱へ周圍池を廻し、古木蓊鬱として繁茂し、面積五町餘あり是れ應神天皇の御陵なりと傳ふ、（現今御陵參考地となれり）泉州誌に應神天皇始葬百舌鳥陵后磐田陵葬とあり

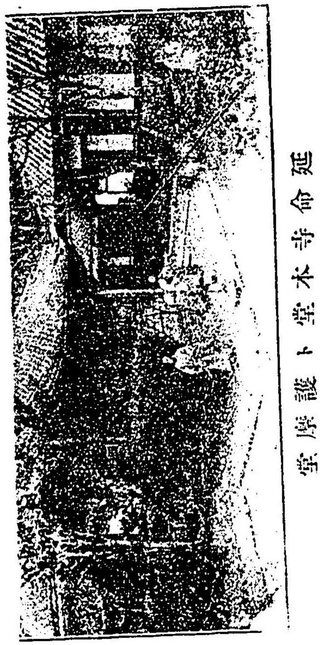
口眞言宗高野派中本寺光明院（頭痛除地藏尊靈刹）當山は泉北郡西百舌鳥村百舌

神社々務所

大黒天



大黒天



延命寺本堂ト護摩堂

堺　長谷寺

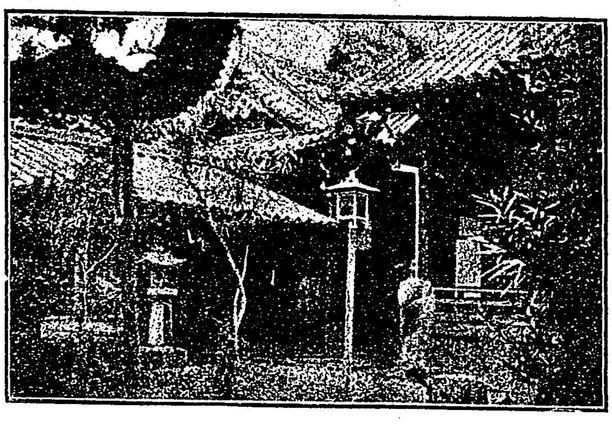
妙國寺ノ蘇鐵

堺方違神社鳥居前

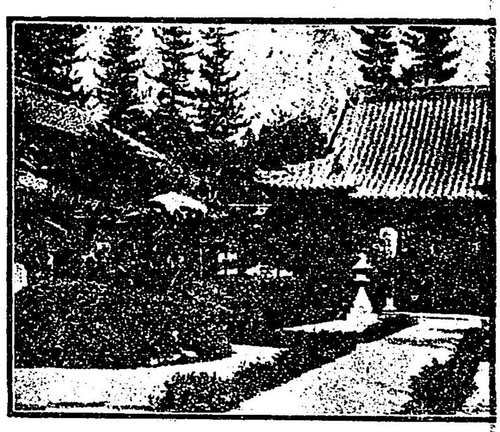
大和川ヨリ淺香山ヲ望ム

本成寺（日親上人ノ舊蹟）

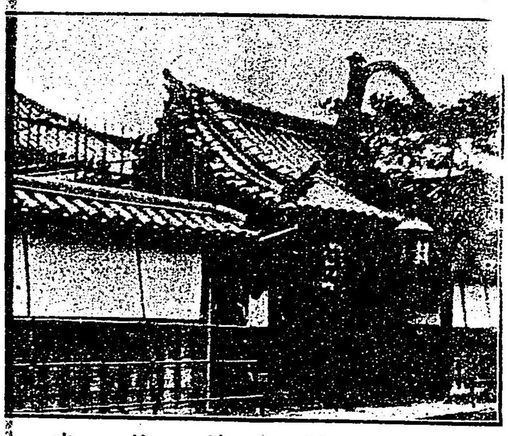
光明院ノ境内



本成寺（日親上人ノ舊蹟）



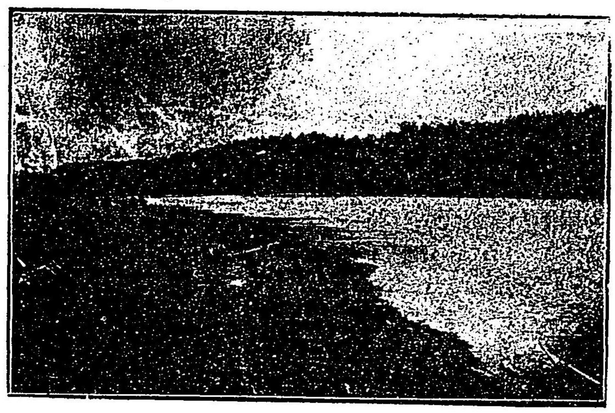
光明院ノ本堂



堺　長谷寺

妙國寺ノ蘇鐵

堺方違神社鳥居前

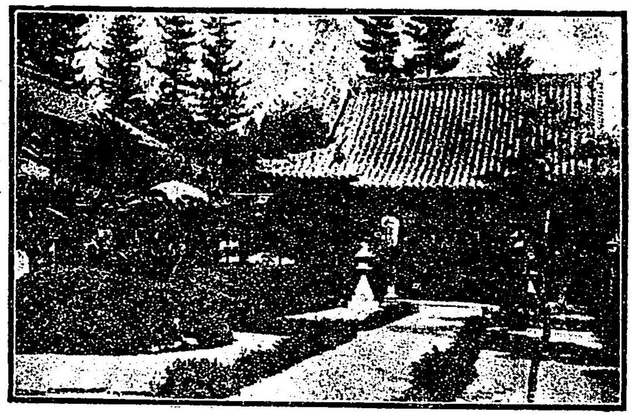


大和川ヨリ淺香山ヲ望ム

本成寺（日親上人ノ舊蹟）

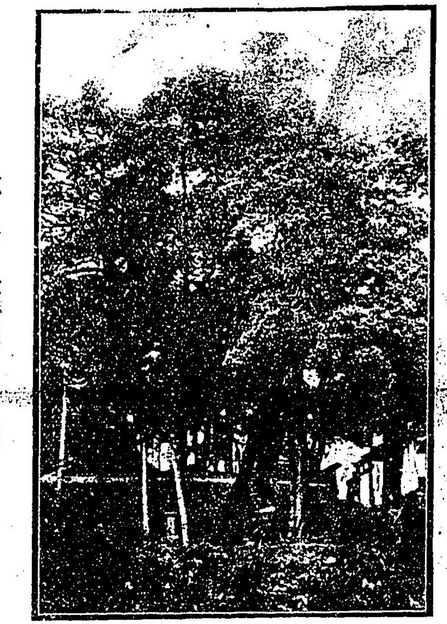
光明院ノ境内

本成寺（日親上人ノ舊蹟）

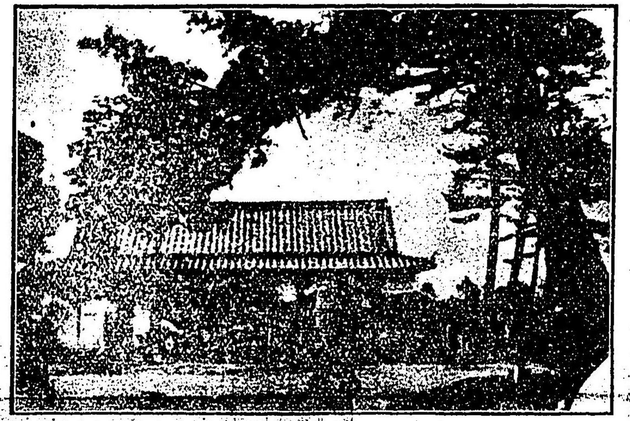


光明院ノ本堂

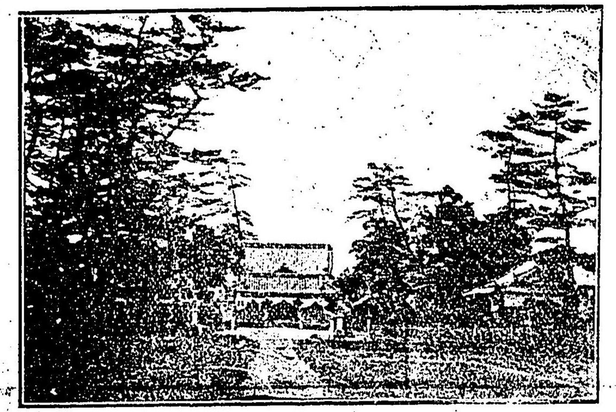
長野神社神殿



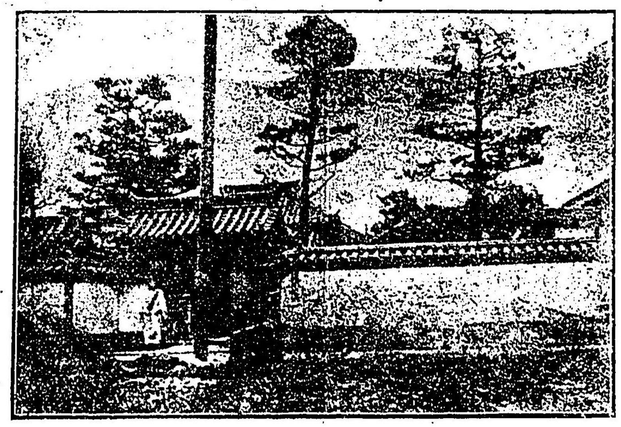
長野神社神苑



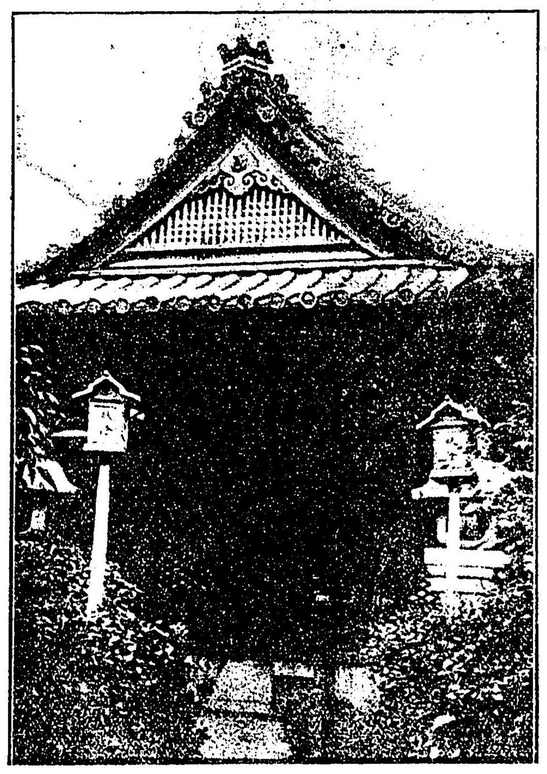
萩原神社々務所



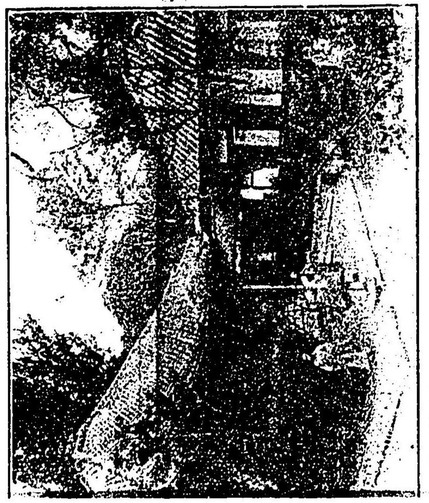
萩原神社



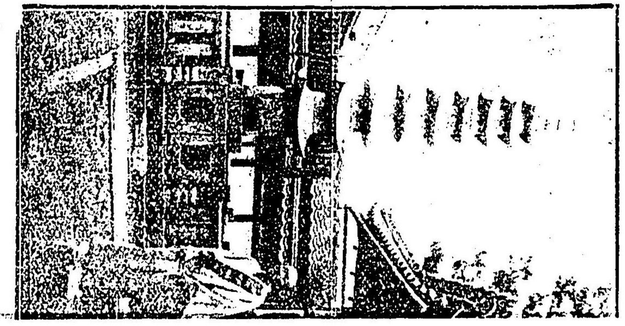
天黒大口ノ澤



延命寺正門ヨリ紅葉山ヲ望ム

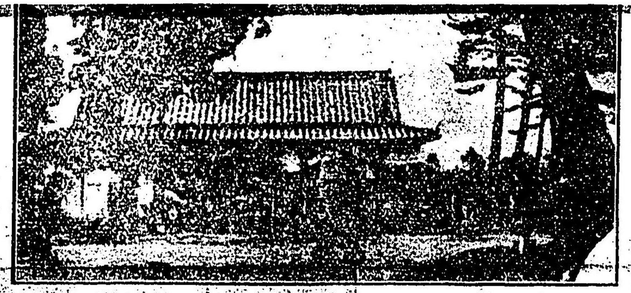


延命寺本堂ト護摩堂

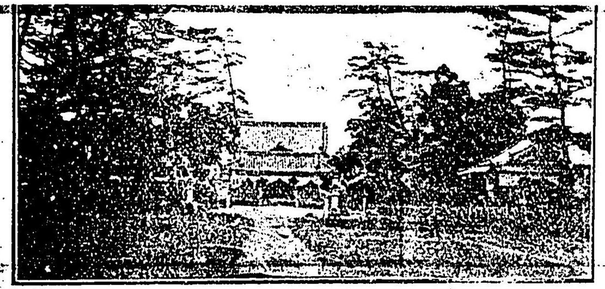


長野神社神殿

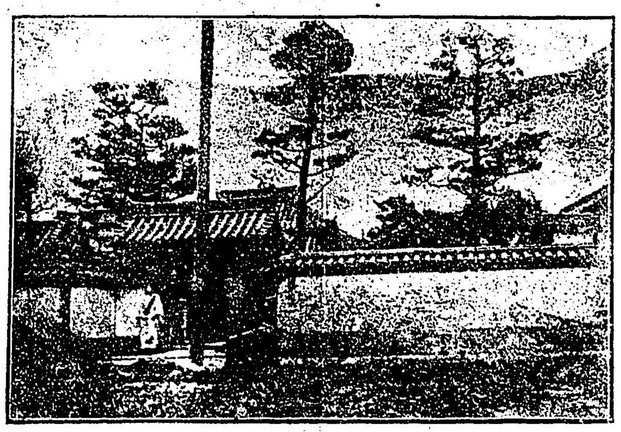
長野神社神苑



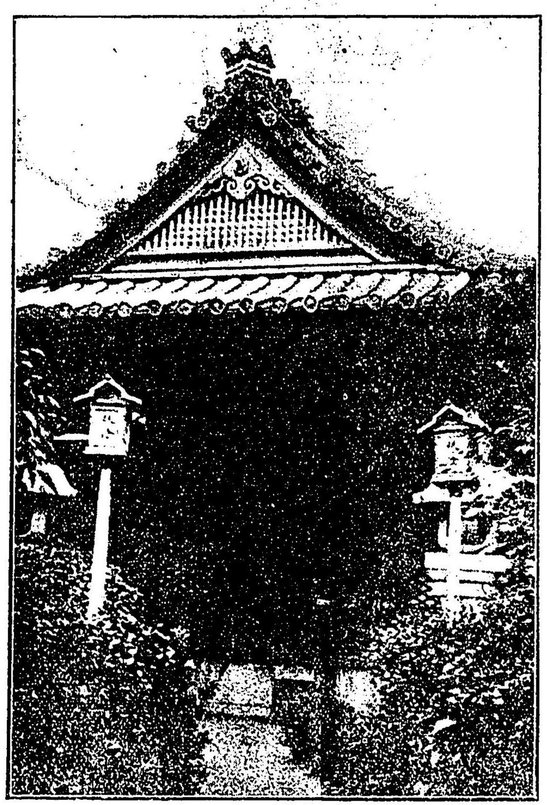
萩原神社々務所



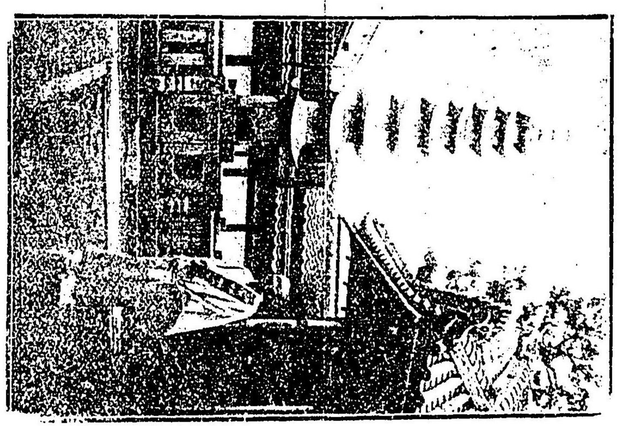
萩原神社



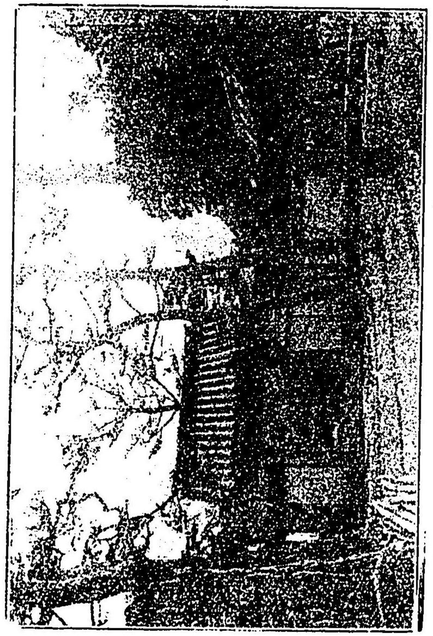
黒田大口ノ滝



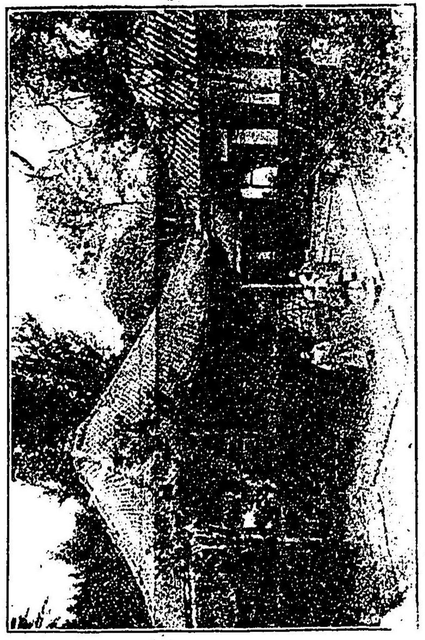
吉方除守授与所
真言宗御室派　西ノ坊



黒田大口ノ滝

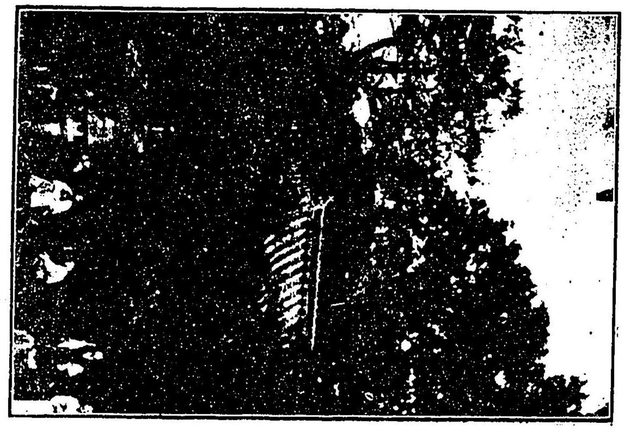


延命寺正門ヨリ紅葉山ヲ望ム



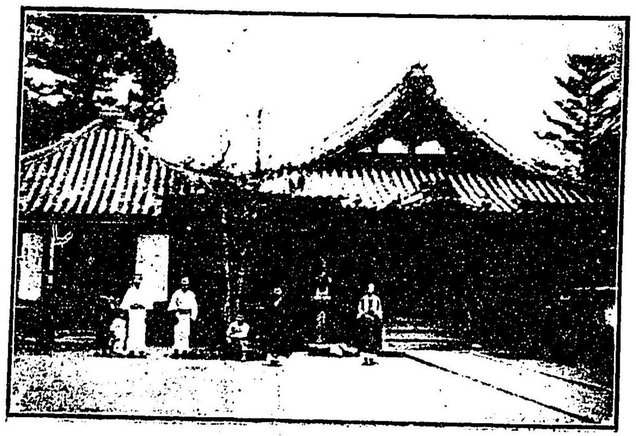
延命寺本堂ト護摩堂

狹山池



內境院音觀

觀音院門前



觀音院本堂

鳥八幡宮の東隣にある眞言宗の古刹なり、佛頂山と號し、光明皇后の御創建にして行基菩薩の開基なり（元は大鳥山神鳳寺の一派なりと云ふ）當時堂塔頗る壯觀を極めたるも、天正の兵燹に罹り盡く烏有に歸したりしが、元祿年中に到り再建せるもの現在の堂宇即ち是れなり、寺内に寶砂頭痛尊と稱せる地藏あり這は往昔神功皇后三韓征伐の御時、肥前國松浦の里に於て釣を垂れ戰勝を祈り給ひしに、一白石を得給ひき、之れ龍神の賜ふ處の如意寶珠なりとて、凱旋の後爰の地に埋め上に等身の如意塔を安置せられ、且宣はく此の塔前の土砂を求め沐浴して祈らば壽長からんと、偶皇后御腦を惱ませ給ひしかば、此塔に祈願を込め給ひしに、忽にして御腦痛平癒あらせ給ひき、斯る靈驗顯著なる尊像なれば、頭痛を病む者の信仰頗る多く、頭痛除地藏尊とて例月一日、十五日、廿四日の緣日には、信徒の參詣陸續として寺域封彊廣からざれども、粉壁の塔を繞らし軟砂を敷き、青苔滑かなる邊古檜老松蓊鬱として繁茂し、閑雅幽邃にして常に灑洒たり、初夏椙に啼き過ぐる杜鵑の裂帛の聲と、中秋庭前の千草に宿かる虫の音を聽くに至りては、眞個雅客をして俗腸を一洗するの仙境たり、外に本堂前に數百年を經たる山茶花と蘇鐵

の大木あり、古色洵に掬すべきものあり

明治三十七八年の役戰病死士菩提の爲め一大招魂塔の建設あり、其銘に云く

精忠貫日月、壯烈動乾坤、萬骨枯爲土、遺芳千古存、

光明院庭前の千古礎石をよめる

いにしへもしきしのはれてゆかしきは　庭に苔むす千代の礎　春樹

其他寺寶としては

一文珠菩薩畵像、釋迦金輪佛、頂尊坐像、十一面觀音立像（唐曹弗興筆）己上鑑査狀附、一地藏菩薩立像（傳云聖德太子作）一天然木洞入白衣觀音（隱元禪師所持）一辨財天印板（傳云弘法大師作）一無垢淨光陀羅尼塔（孝謙天皇御作）涅槃彫刻像（三國傳來）、一大黑天古像（作者未詳）、一八葉古鏡、一虛空藏菩薩（惠心僧都筆）、一阿字（弘法大師筆）一兩界曼荼羅（金輿敎大師筆）一三尊釋迦（唐畵）（嵯峨天皇贊）

一後水尾院御宸翰

「夜もすがら佛けの道をもとむれば　我こゝろにそ尊ね入ぬる」

其他見るべき物甚だ多し

年中行事

春期　秋期　觀月法會

毎月　一日　十五日　廿四日

口普光山池浦觀音寺　堺東停車場より東廿丁南河內郡北八下村字南花田にあり眞言宗山階派にして愛染院と號す、世に當寺を花田の觀音とも謂ふ、天平年中聖武天皇の勅願により行基菩薩の開基なり、本尊聖觀世音菩薩を安置す、爾來歷代の勅願所たり、當山は大和の大佛を建立せる時、西方の厄除として草創したるものと傳ふ、當時は八丁四方の大伽藍なりしが、後天正年中兵燹に罹り悉く烏有に歸せるも、本尊は恙がなかりしかば道專と云ふ者、深く觀音の奇特に感じ土室を造り尊像を納む、其後多聞院賢祐師をして中興の開基となし、堂宇を建立したるもの現在のもの即ち是れなり、境內に淸春稻荷社あり是れ當寺の鎭守にして、行基菩薩の歸依厚かりしと云ふ、毎年八月十日、千日會式、春秋彼岸會を修行す

○西村停車場

□法雲寺　當驛より東廿五丁南河内郡今井村にあり黄檗宗の古刹なり

□巨勢金岡の故居　東北廿丁金岡村字金田にあり、金岡は宇多帝の寛平年中の人にして、清和、陽成、光孝、宇多、醍醐の五朝に歴仕し繪畫を以て名あり、當時紫震殿の障子に支那古來の各名臣卅二人を畫き、是を賢聖の障子と云ふ、當所は金岡の邸宅ありし處にして、外に金岡淵、金岡神社あり

□萩原神社　西村停車場より東五丁南河内郡日置庄村字原寺にあり、祭神は天穗日命、天櫛玉命及び素盞嗚尊の三座にして、是を日置の天神と稱す、尚ほ菅原太神を配祀す、本社創建の年代不詳、菅原太神は、村上帝の天徳三年勅宣により、此の日置高庭の萩原に祀る後正慶元年四月十日社内火を失し、社殿悉く烏有に歸せしが同二年社殿の造營成りて、日置天神と菅原太神とを相殿に奉齊す、往古當社は神宮寺にして境内に萩原山と稱して塔中六ヶ寺を有したる寺院あり頗る旺盛を極めしが中世に至り寺院を廢し其六ヶ寺の寺内大聖寺妙覺寺は原寺村に遷し、正福寺は北村に地藏院は高松村に釋伽院は丈六村に觀音院は西村に遷せしといふ、本社より約三丁の處に大口神社(朝日神明)と稱するあり、這は垂仁天皇の御宇五十瓊敷入彦天子此の里に於て太刀千口を作らせ給ひ、赤

花の伴亦裸の伴とも名付けて、大和國布留石上神社へ納め給ひ同社の神寶となれり、此地に劍を研ぎ給ひし靈泉水あり研淵と稱せり、古老の言に其頃當地に毒蛇現はれ諸民に害を與へければ、皇子蛇除の法を行なはられしかば、今に至るも毒蛇住せずと傳ふ、又此の靈泉を服用すれば疾病に効ありとて遠近より來りて、此の泉水を乞ひ歸るもの夥しと云ふ

社域平坦にして古松雜樹は蓊蔚として天に聳へ、華表は高く街道に屹立し境内より展望すれば田野開け、眺望無涯、眞個俗腸を一洗せしむ、祭日は四月三日春季祭、四月廿五日合併紀念祭、七月廿日夏季祭、十月十一日、十二日、十三日秋季大祭、十二月五日冬季祭、毎月廿五日例月祭等にして大祭には奉納角力あり

○狹山停車場

□狹山池　當驛より西南四丁狹山村にあり、當國第一の大池にして周圍一里半潤十五萬三千十五坪、流下五十三ヶ村の田圃を潤す、池底に石樋あり、之れ行基菩薩の造りしものといふ、外に尺八の樋あり斯は慶長年中小和田久兵衛尉と云ふ人の造りしものにて、天下尺八樋の始めなりといふ、此地に數多の蕅菜を

生ず其味頗る美味なり

汲分る末いかはかりひろからん　狹山の池の水の心は　本房

蓴菜や水をはなれて水の色

□觀音院　狹山停車場より西へ十五丁泉北郡東陶器村字岩室にあり、古義眞言宗にして、聖武天皇の天平年間行基菩薩勅を奉じて草創し、自刻の阿彌陀如來を安置し極樂寺と號す、其後弘仁六年弘法大師四十二歳の時、高雄山より高野山に登らるゝや途中錫を此地に留めて、除厄祈願のために十一面觀音の尊像を彫刻し、堂宇を建て本尊を安置し、脇立には弘法大師の像、矢負の不動尊及び藏王權現の像あり、寺號を改めて、觀音院と稱し密教弘通の道場とせらる、今の本尊厄除觀音は即ち此の靈像なり、往昔は朱印地を有したる、七堂伽藍の巨刹にして數多の坊舍は甍を並べ瑜伽場たり、三密の法燈は四邊に輝き、五智の法水は十方に流れ、堂塔亦た連々香燈心神を照し、住僧群を成し崇敬日々に厚かりしが、惜哉應仁以後數回の兵亂に罹り灰燼に歸し、或は廢頽して貴珍の寶物古畫は丙丁に歸し、安永以後僅に當觀音院のみを存し以て漸く佛殿を保持せり、現在の本堂は罹災後慶安三年の建造物なり、天正の騷亂に方りて、時の住

侶佛像の灰燼に歸するを虞れて、先づ阿彌陀佛を擔ひて當院より北の方五丁の處に在る池中（今尚阿彌陀池と稱し存在す）に投入し、再び觀音像も深淵に投じて亂を避くる初念なりしも、終に觀音の尊像は其意を果さず僅かに身を以て免れ、後その踪跡を詳かにせず、平亂後阿彌陀の深淵にあるを知らず烏有に歸したる者と思考し幸ひ觀音靈像の灰燼を免がれ、存在せるを以て當山の本尊と定む、後寶永年間に至り池中より阿彌陀像を發見し大に畏敬して再び當院に安置し、享保三年堂宇を建立す現在の阿彌陀堂即ち是なり、脇立には役の行者を安置す、斯く星移り物變りて今や往古の結構を具備せず、規模亦宏壯ならざるも尚一つの靈地として世人の信仰歸依の徒參拜尠からず「阿彌陀池」當院より北方五丁の處にあり、當院本尊阿彌陀如來の池中に投入したるの故を以て、今尚阿彌陀池と稱して其由緒を知らしむ、年中の法要としては、一月十八日大般若經四月十五日阿彌陀佛の祭日七月十日千日法要等修行す

□狹山神社　當停車場より南十五丁南河內郡狹山村字半田にある式內鄕社にして、祭神は天照皇大神、素盞嗚尊、稻田姬尊、大山祇尊の四座を相殿に鎭齊す古來本村附近一体を植田の庄と云ひ（中世米田村と改稱せり）最も古き名邑な

り、當社は崇神天皇の勅願によりて創建せしものにして皇室の崇敬頗る厚かりき、爾來幾多の星霜を經たるも勅請以來舊地に鎭座し靈驗灼然なれば、土人敬神の念太だ篤く賽者常に絕へすと云ふ、維新後に至り舊廿五ヶ村の鄕社となり現今大宮と唱へ居れり、當社の北方に城と稱する小字あり、說閒往昔大楠公麥所に城砦を築き陣を構へし時當社へ祈願を籠められ、小勢を以て克く大軍を制せられたりと傳ふ、社有明神山に御廟所と稱する所あり、地域五反步餘ありて老幹古木鬱蒼として繁茂し、周圍は土塀を築き溝を鑿ちて靈域となせり、廟內に式內堤神社あり祭神は印色入日子命一座を祀る、命は崇神天皇の御孫に當らせ給ふ、天皇深く民を愛し給ひ農業を勸められ、命に命せられて狹山池を掘らせ給ひたり、當時命の宏大なる御功績を稱へて、當明神山に奉祀ありしが、明治四十二年四月當狹山社神へ合併奉祀せり、外に稻荷神社、戎神社及末社八座を鎭座す

境內は高燥にして閑雅なり、南方の巓山に登れば東方遙に金剛葛城の諸嶺高く聳へ、西方天野川を隔てゝ翠巒蜒蚰田舍其間に隱見し、北方滿々たる狹山池を眼下に見る、其景趣寔に絕佳なり殊に春夏の候には數多の山躑躅咲滿ち、老藤高く樹上に開きて其美觀言ふべからず、秋は彩る樹々の風景椎の實拾ひなど亦面白し、眞に四季淸遊の勝地と稱すべきなり、祭日は四月十四日春祭、七月十五日夏祭、十月十日大祭（神輿渡御）二月初午日稻荷祭、一月十日戎祭を執行す

口今熊三都神社　狹山停車場より西南十八丁南河內郡三都村大字今熊にあり、祭神は伊邪那美命、應神天皇、大物主命を相殿に鎭齊す、當社の由來を尋ぬるに、祭神伊邪那命の祠廟は天正十五年三月十四日の創建にして、熊野三所權現に稱し、熊野本社の分神なりと傳ふ、應神天皇の祠廟は當村大字尊榮木新田大字大野新田にありしものにして、又大物主命は大字岩室に敬神社琴平神社と稱し鎭守ありしを、當社及び應神天皇の祠廟、外三社を合併し、明治四十一年四月十六日三都神社へ移轉合祠するに至れり、今熊の地には往昔今熊山と稱したる眞言宗の大伽藍ありしが、永應年間兵亂の爲め社領沒收され、竟に廢滅せりと云ふ、當社は昔より恒例として今に行ふ式あり、這は毎年十二月十三日氏子各戶竝の箒を丸竹に差して二本にくゝり、一月一日より十五日迄飾り置き其日燥竹をなし、其の先を持歸るものにして其を正月殿と稱す、又一月元旦氏子神

殿に會し、神酒を戴きて解散するを朝拜と稱す、當社の祭典は四月十六日記念祭八月一日夏祭、十月十一日大祭を行ふ

□式内郷社菅生神社　狭山停車場より東十八丁南河内郡平尾松大字菅生にあり祭神は天兒屋根命及び菅原大神を奉祀す、當社の由緒沿革は建武曆應の頃二回兵燹に罹りしため舊記等燒失せしも、(河内誌延喜式等を參照するに、創建は往昔菅生朝臣が遠祖、天兒屋根命を祀れるに起因し、孝謙天皇寶字八年神封を充て奉り、清和天皇の御代從五位上を授けられ後從一位に進められ、醍醐天皇延喜の御に大社に列り、祈年大月次新嘗の案上幣帛に預かれり、又舊記によれば當社は菅公發現の靈地たる緣故により、菅丞相を合祀せられたりと傳ふ、德川氏の時代に移りて京都林丘寺の宮の御祈願所と定められ、幣帛料等供進せられ尚舊丹南藩士初め地方人民の崇敬信仰深かりきと云ふ、菅生朝臣の邸地は里人之を殿山と稱へ當社より約十丁東方にある高地なり、祭典は十月十一日大祭四月五日菅公誕生祭を行ふ

社域平坦にして四面田圃を以て圍み、陽春駘蕩の候に至るや四面の菜圃黄金の氈を展べ、夏期稻田を渡たる風人の衣袂に入る、其の境は田野遠く開けて頗る眺望に富み、俗塵を一掃せしむるには恰好の仙境たり

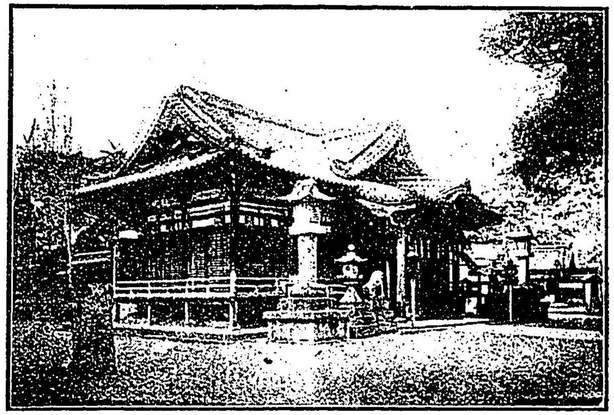
□陶荒田神社　狭山停車場より西二十丁泉北郡東陶器村字上之にあり、式内村社にして祭神は、高產靈尊、事代主尊、劍根命及び菅相公なり、創建は崇神帝の七年十一月古神の孫大田々根命、勅を奉じて、大和國大三輪大神を奉齋する、大神主に任ぜられたる神社を此の地に建設し、祖先の神靈を奉齋す是れ當社の創建なり、上古大國主大神降臨の靈跡にして大田々根命の居住地なりと云ひ、當地は昔陶器庄と稱し陶器郷の祖神の地なりとも傳ふ、境内三千坪除高燥の地にして眺望に富み、東に金剛、葛城、二子山、北に攝河泉の山野を双眸に適す、毎年十月五日大祭を行ふ

□高倉寺　狭山停車場より西南三十丁泉北郡西陶器村字高藏寺にあり、高倉寺は泉州四ケ大寺の隨一にして、塔頭を寶積院と號し眞言宗高野派に屬す、夫れ當山は文武天皇慶雲二年(一千二百七年前)行基菩薩勅を奉じて創開し、堂宇を建立し自ら立木の柳に向つて、五体投地の威儀を調へ、一刀三禮の誠を盡し藥師如來の靈像を彫刻安置し大修惠院と號す、聖武天皇天平年中料物を下し勅

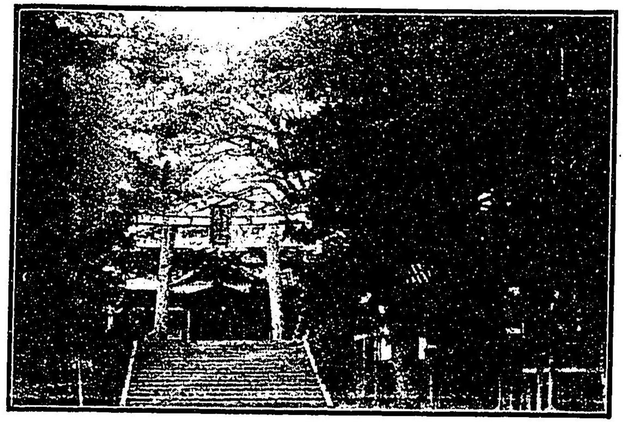
して、七堂伽藍を造營し四十九の坊舍を結搆す（當時の建物は金堂、寶塔、鎭守社殿、長床、辨天堂、聖天堂、伊勢天堂、經堂、廻廊、奥ノ院、其他）天平勝寶年間山號を賜ひ高倉山大修惠院と稱す（後大修會山天王院或は大修會山高倉寺と改稱せり）爾來高倉寺を以て永く鎭護國家の道場と定め、是れより歷代の勅祈願所たり、弘仁年中弘法大師當山に遊化して、密敎灌頂の道場を構へ、兩部大日如來を彫刻して寶塔に安置す、現に大日堂の本尊たり、寬仁年中惠心僧都奥の院に參籠し、阿彌陀佛千躰を刻して安置す、世に高倉千躰佛と云ふ、斯くの如き往古の美觀宏壯の堂塔も終に中古戰陣の屯となり、應仁己來數度の兵燹は延ひて國家の珍寶は悉く烏有となり、殿堂坊舍亦た多く灰燼に歸し明治初年の頃迄は五六の寺院ありしが、何れも廢頽して以て今日の如く、塔頭寶積院一ヶ寺を殘すのみ

年中行事は、一月八日藥師如來法會、三月廿一日御影供、七月七日法起菩薩法會、春秋彼岸會

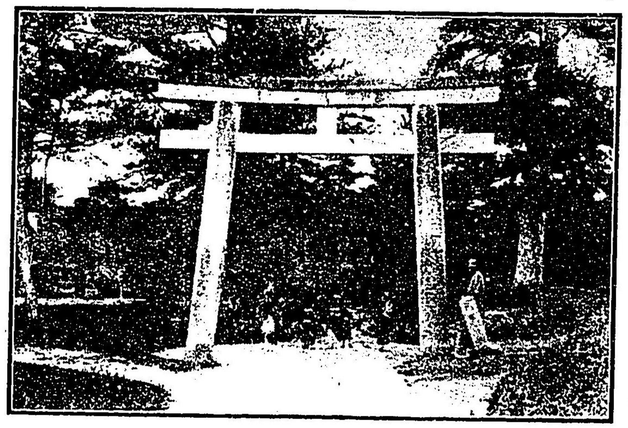
口「梵字ガ芝」　高倉寺を去る東十丁の山間半腹に、方二間の梵字形を堀盡せる凹地あり、往昔より砂土埋沒する事なし、草木亦た生せず世人奇異とし呼びて梵字ガ芝と云ふ、傳へ云ふ嘗て弘法大師當地へ遊化の砌、錫杖を以て書かれし



百舌鳥八幡宮



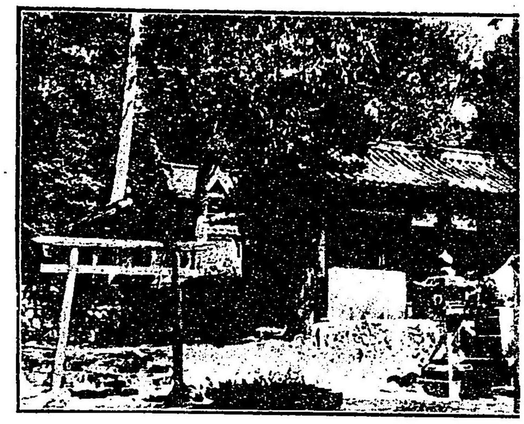
百舌鳥八幡宮二ノ鳥居ヨリ本殿ヲ望ム



百舌鳥八幡宮一ノ鳥居ヨリ社殿ヲ望ム

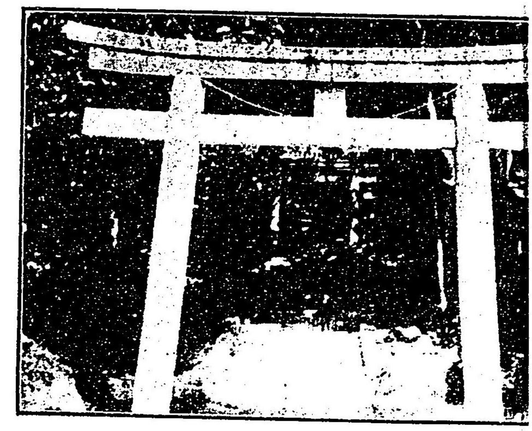
百舌鳥八幡宮放生橋ヨリ社殿ヲ望ム

菅生神社全景

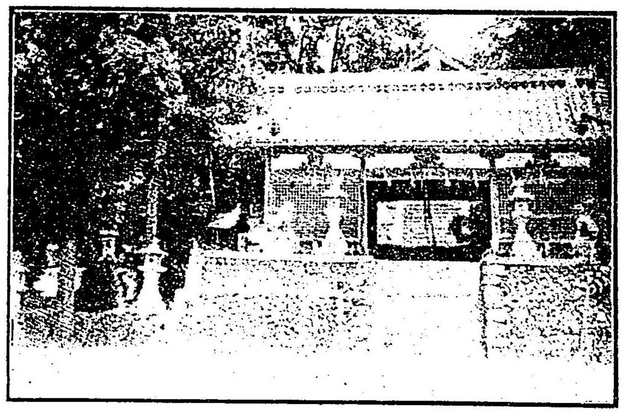


三都神社本殿及拜殿

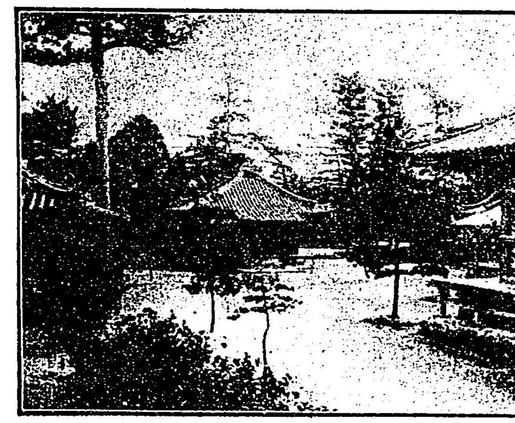
菅生神社



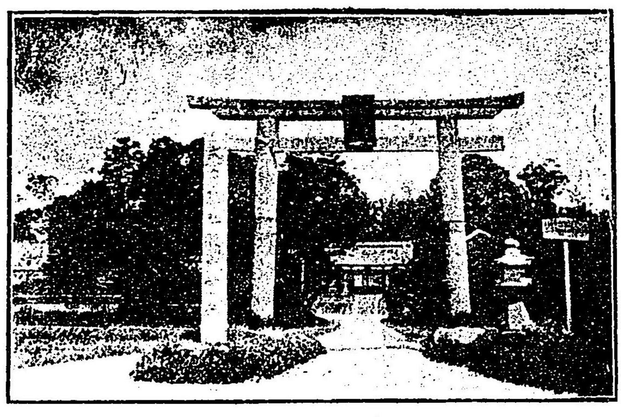
三都神社



狹山神社本殿及拜殿



高倉寺ノ伽藍

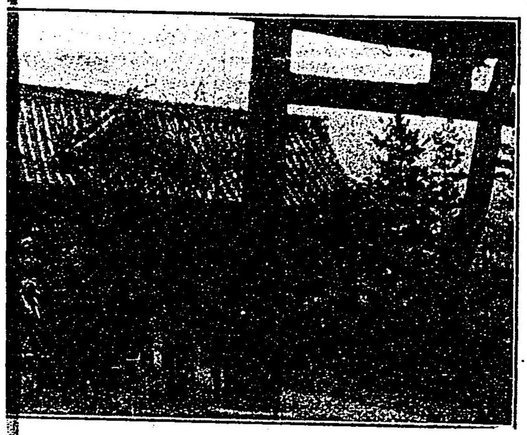


狹山神社馬場崎

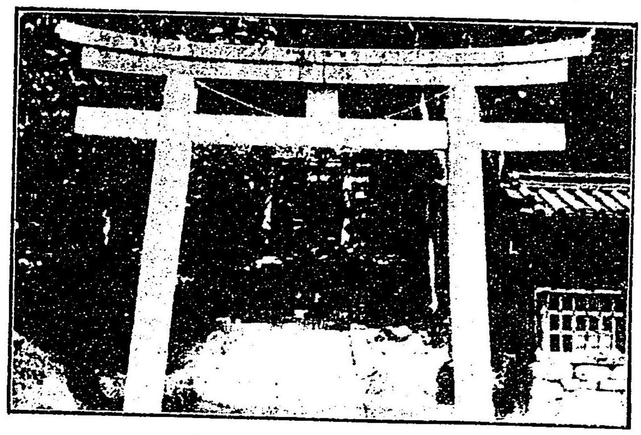
高倉寺ノ全景

菅生神社全景

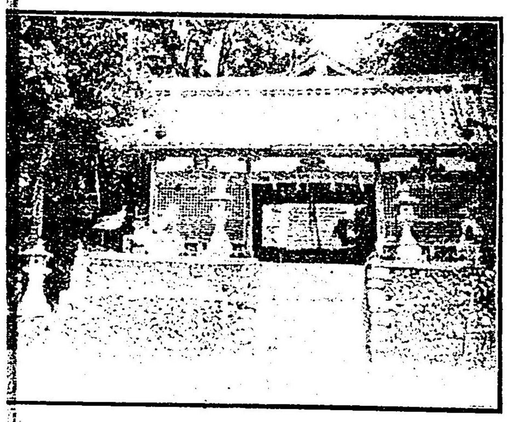
三都神社本殿及拜殿



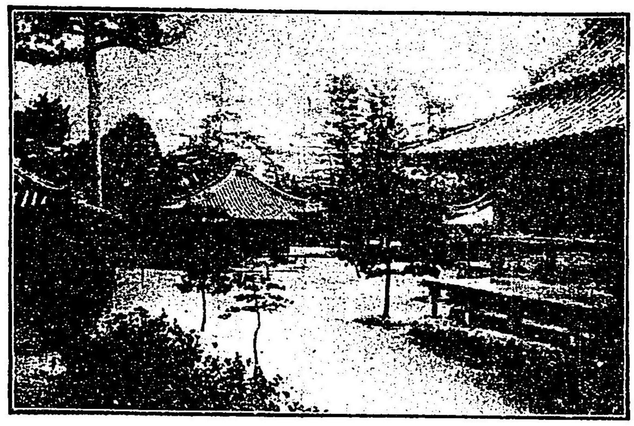
菅生神社



三都神社



狹山神社本殿及拜殿

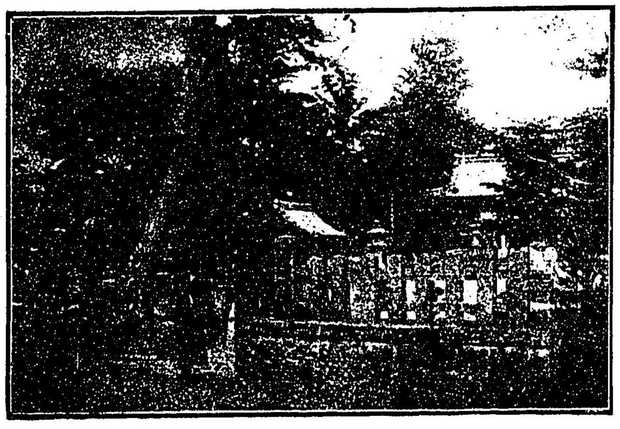


高倉寺ノ伽藍

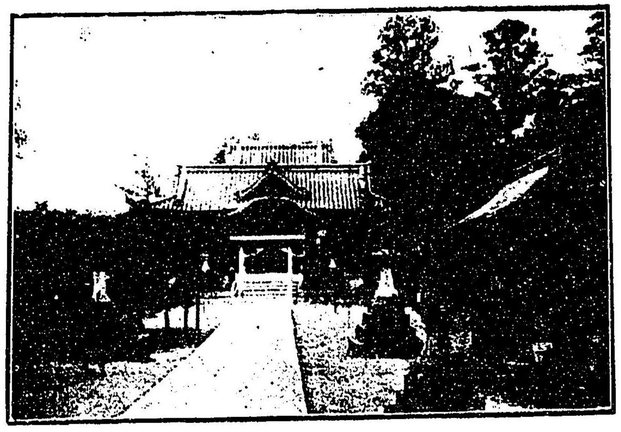
狹山神社馬場崎

高倉寺ノ全景

上神谷妙見庫裡



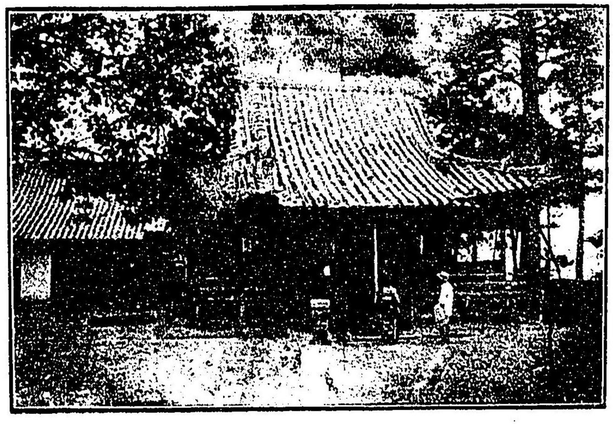
上神谷妙見境内



上神谷妙見本堂

興通大師全景

興通の大師新四國遙拜所



興通の大師堂

ものなりと（七不思議の一）

□「行基燒」　高倉寺附近の山林中に古代陶器燒の窯跡、處々に散在せり嘗て行基僧正此地に於て、陶器燒を初むと今尚ほ土中より古代燒の陶器を發見する事屢々なり、卽ち世に行基燒と稱す

□「彌頂亭」　高倉寺より西北五丁にあり、小高き山にして人呼んで御茶山と云ふ、頂上平坦の地あり眺望最も佳、數年以來彌頂亭と稱する小堂あり、諸大家來りて風致を賞するもの不尠、羅山林道春先生の陶器十景の雅韻を載せて泉州記にあり、曰く、金剛初雪、淡島殘月、萬松風聲、江上漁火、斜日片帆、炭竈孤煙、秋天來雁、池塘春水、編戸墟歌、古寺晩鐘なり

□「陶器莊」　深坂外七ヶ字より成る總稱なり、此の名は前記古代燒より起因するか

□「陶器千塚」　當村内に千塚と稱する古墳あり、往古の勇士戰死の墳墓と稱し或は殉死の義士の墓とも云ふ、稀れに村民古代の珍寶を堀鑿する事あり、時に古考學者來りて研究せりと云ふ

□高倉寺は名區と稱すべきに至らざるも、古刹靈場として稱せられ、風致秀拔ならずと雖も、郡内の勝境水陸の景一望の下にあり、尤も銷夏に適せり

○瀧谷停車場

口當驛附近　栗、松茸を産す美味にして、其季節に至れば阪地へ向け多額の輸出あり

口盛松寺（興通の大師）　瀧谷停車場より西六丁南河内郡天野村にあり、眞言宗大覺寺派にして山號を佛日山と稱す、抑も當山は弘法大師の遺跡にして、中御門天皇の御宇享保年間諦觀和尚（當國南河内郡鬼住村）の中興開基なり、和尚當地の靈跡を稱贊して同郡加賀田村（延命　寺第　三　世）にありし寺を徙して、堂宇を增築し鎭護國家の道場となし給ひ、本尊弘法大師の像を刻み其躰内に佛舍利及び大師自作の丈二寸一分の尊像を納めたり、之れ世に厄除大師と稱して、靈驗顯著なり、其後一百年を經天保年間順敎大德四國靈場に摸擬して、山内に八十八ヶ所の遙拜所を建設し、廣く歸信の徒を參詣せしむ爾來今日に至る迄參者詣絶ゆる事なし、然るに星霜幾多の後堂宇大破に及びしかば、現住高橋覺眞師晉山后大師堂に一字三禮一石一字一百萬經書寫を納め、之れが興隆に盡瘁し今や庫裡の增築を終へ、着々本堂の修繕を行はんとしつゝあり、早晩機の到るや面目の一新果して看るべきなり

境内高燥の地にして、東南遠く楠公の遺跡、金剛葛城の山脈に對し、西北を望めば遙に淡路島茅渟海大阪灣を眺め、攝河泉の風景一眸の中に入るの感あり眺望絶佳なれば參詣の徒數珠の緣を結ぶと同時に、此風景を探り一日の清遊を爲すも亦樂しからずや、年中行事としては

一月廿一日　大般若　修行
四月廿一日　正御影供法會
毎月廿一日　緣　日

口鄕社清崎神社　瀧谷停車場より西廿町南河内郡天野村大字小山田にあり、祭神は神功皇后、表筒男命、中筒男命、底筒男命、高良明神の五座を奉祀す、當社の創立は神功皇后攝政十一年辛卯四月上の卯日の鎭座にして、攝津國官幣大社住吉神社の別宮なり、大古神功皇后三韓御征伐凱旋の際、御託宣により黑江の里に住吉の神現出して、天下を巡行すと譯日本記に見ゆ、其時和泉國淡瀨の川上に（今ニ船ノ形存セリ）勝陀船と云ふ處へ御着遊され、夫より河内國へ御幸行せられしとき、和泉國境へ名主與三五郎と云ふ者、御迎ひに出でたる處とて、今に與三五郎塚存在し茲に御息み給ひ、夫より御旗を立てられしとて旗の阪と云ふ、其附近神阪を經て高天原に御着き玉ふ（高天原とは當神社の領地内にあり）其舊蹟今に歷然たり

該記念のため此小山田の里に一神社を創建し、住吉の神を祀らせ給ひしは即ち當神社の事なり、されば明治初年以前迄は住吉神社と稱し居りしが、いつしか清崎神社と改稱せられしは不審かしき究なり、毎年の祭典式禮等は

一月二日御弓の式あり、四月卯の日には卯の粽の式あり、毎月卯の日を以て月次祭日とす、

十月十二日秋季大祭

秋季大祭には馬駈の式あり、其式たるや三韓征伐凱旋祝賀式にて、裸馬數十頭社前に於て馬駈神事執行す

口瀧谷不動　瀧谷停車場より東廿五丁南河内郡彼方村にあり、新義眞言宗にして瀧谷山明王寺と號す、當寺は嵯峨天皇の御宇弘法大師の開創に係り、本尊不動明王は國家安穩萬民化益の爲めに、一刀三禮し以て製作し給ひし尊像なり、往昔は現境内より十二丁程南の方嶽山の中腹に安置しありしを、奥の院とし又現境内より大凡六丁許西の方に伽藍所堂塔等ありて、頗る隆盛を極めしと云ふ大楠公は此不動明王を守本尊とし、元弘の亂賊軍征伐の際屢々危難消除の靈驗を蒙り、戰爭の餘暇には參籠崇信淺からざりしと、其后足利將軍義詮の爲めに

兵燹に罹り、堂塔伽藍悉く烏有に歸し唯本尊不動明王及兩脇士のみ火災を免れたり、茲に不思議なるは本尊を火中より誰れ出すとも知らず、其堂宇より十丁許地方の溪間に徙すや、數丈上の山より清泉何時しか湧出し、瀧をなして本尊に灌瀉せり（是より土地の名瀧谷山と稱し遂に當寺の山號となりぬ）此時に應見馴れりぬ一盲僧來りて謂へらく、當本尊は世にも稀れなる靈像なれば、取敢へず假堂にても出來らひ安置供養せばやと、近里の道俗を勵ましたれば、日ならず一の小堂建築成り（今の觀音堂なり）茲に安置し奉れりかくて盲僧は日夕供養懈りなく禮拜誦呪殊に勉なりしが、其後旬日にして盲僧の目は忽ち瞎眼となりぬ、時の人見聞驚かざるものはなかりき、數日の後盲僧何地へか失せて影だに留めず、不思議の行跡を印して行衛遂に知るものなし、之れ或は弘法大師の化身にて、利益有情の爲めに顯現し給ひしにやと、人皆喧傳せりとぞ、爾來眼病者は殊に歸依し遠近より男女の參詣頗る夥し本堂より三丁許東の方溪間に、弘法大師の加持井と傳ふる清溪あり水甚だ清澄にして、而かも旱天に減せず、亦降雨の際と雖ども增す事なく、此明王寺の靈水にて不思議に諸病を治すの効あり

年中行事

一月一日　新年護國會大護摩修行　二月節分星祭
三月廿五日　常樂會　四月廿一日　御影供
五月八日　灌佛會　六月十五日　弘法大師降誕會
六月十七日　興教大師降誕會　八月十五、十六、十七日　無緣大施餓鬼修行
十一月三日　仁王法會　十二月十二日　興教大師報恩講
一月五月九月廿八日　大會　四月十月十五日　忠魂碑法事
毎月十四日、廿七日　御通夜法話執行　毎月十五廿八日　常例法會
口上神谷妙見山　瀧谷停車場より西へ廿五丁（人力車の便あり）泉北郡上神谷村にあり、日蓮宗にてし妙見山感應寺と稱し、堺妙國寺末なり、本尊妙見大菩薩は法道仙人の作なり、當妙見は孝德天皇の大化元年法道仙人當地に留錫され、一切衆生所願圓滿の祈誓を籠め一刀三禮を以て彫刻せられし尊像なり、宜べなる哉薩陀の靈驗顯著にして、衆生祈願の感應深きは畢竟法道仙人の賜なりと謂ふべし、境内に常富大菩薩、七峯龍王、神谷龍王を祀る、土地高燥にして四方の風景最も佳絶なり、近年更に瀧を開き一段の風趣を添ふ、毎年四月十五日、十六日、九月十五日、十六日大法會執行、十月十三日大會式執行、毎月十五日十六日緣日此の日阪神の參詣者頗る多し
口鉢峯山法道寺　瀧谷停車場の西北一里、和泉國泉北郡上神谷村にあり、眞言

宗高野所轄の名刹にして、國中無比の古伽藍たり、本尊藥師如來は慈覺大師作
兩脇士多聞持國の二天王は傳敎大師作なり、就れも美術參考品として鑑査狀の
交付を享く、茲に當山草創の由來を繹ぬるに、垂仁帝の八年天照皇大神鳳凰の
形を現し、爰所に降臨し給ふ（盖し大鳥郡の稱號之れに起因し、上神谷の地名
亦之れに因めり）尋いで景行帝の五十五年十一月十三日曾稱里に遷座ましますこと
卽ち今の千種の森に於ける大鳥大明神是れなり（今至るも當山大鳥神社の奥の
院と呼ぶ）厥后天智帝の白雉年中西域の異人法道仙人、當山に來りて飛鉢の法
を修せられ、始めて佛閣を創建され鉢峯山長福寺と稱す、之れを當山の濫腸と
なす（德川幕府の頃享保年中、德川家に於て長福丸出生あり、諱所ありて今の
寺號法道寺に改ひ）而して別に閑谷院の號あり、天智帝詔して勅願所となし給
ひ、山の四至を劃して寺領を寄せさせ給ふ、嵯峨上皇の高野山に幸させ給ふや
當山に御駐輦あらせられ、莊園若干を寄せらる、而かも勅して御所坊を創建し
給ふ（此坊は元祿年中迄當山の總轄寺たり）尋いで淳和帝屢弘法大師及び高僧
等に勅して、參籠祈禱せしめ給ふ、爾來眞言の道場たり、而して四ヶ院東院、南院、
西院の界道を定め、院毎に四十九院の坊舍を附し、法幢連綿相續して殆二百
閑谷院

余年に迨べり、是の時に當り坊舍の數實に七百有余に達せりといふ、偶〻後深草帝の建長三年六月多寶塔を造營す、これ現存の古建造物にして、明治三十五年四月特別保護建造物に指定せらる、塔内安置の阿彌陀如來及び觀音勢至の三尊は明惠上人の作なりと傳説せり、後村上帝の正平年中、御祈禱請文を寄せ給ひ、その他御物を下し給ふ、故に今猶現存するもの尠からず、而かも當山草創以來什藏せる所の古文書類頗る多かりしも、天正の兵亂に方り散佚せるもの亦甚鮮しとせず、而して坊舍も亦衰頽して三十二坊と成り寺領稍く武人の横領する所となり、當時燈明料の田僅に三町余歩に減ずるに至れり、厥后元祿年中に至りては、坊舍遂に十ケ坊に減じたるも、尚古格を失墜せざりしを以て、當時境浦奉行佐久間丹後守、令書を下して上神谷寺院の觸頭に指定せらる、降て明治維新に迨び、塔中の坊院を併合し、終に二坊となし御所坊を以て法道寺の董寺と爲す、而して今猶現存するものは、本堂、多寶塔、大師堂食堂及楼門等舊時の俤を留む、而かも往昔大伽藍たりしを偲ぶに餘りあり

維新前は當國伯太の領主渡邊侯の領域たりしを以て、領主の歸依太た篤く歷世の君侯屢登山拜趨あり、且つ侯自作の詩編亦什藏せるもの多し、而して現住

井上頼遍老師斯る名刹の浸く頽廢に趨くを慨かれ、檀信徒を會し相謀りて、之れが維持に就き深く計畫されつゝありと聞く

境内は鉢塚山の麓、四邊丘陵を繞らせる溪間に介在し、古槍老杉相錯りたる一小丘を占め、古雅宏壯なる古建造なり、其境は閑にして、其山は靜かに寔に仙境に遊ぶの概あり、境内に一大槇樹在り、傳へ言ふ惠心僧都の手植に係るものなりと、洵に稀有の巨幹たり、爰所は閑靜淨寂なる別乾坤にして、寔に閑谷院の名に背かざる靈境なり、而かも立春には前岡の梅園稍く芬芳を發ち、暗香浮動言ひ知れぬ趣あり、老怪の奇狀せる白藤樹一幹盤屈して枝葉繁茂し、路の兩側を蓋ひたる棚架に乘下し、花時の清賞得も言はれず、杜鵑花の紅燃るが如き候に方りては、蜀魂不斷に鳴渡り轉だ客をして消魂斷腸の媒たらしめ、老鶯晩秋に至るまで、嬌音を弄し人をして猶春曉不覺曉の感あらしむ、晩秋の候四近の山より松茸を出す、香味兩から美なり、茸狩りの清遊には一層の興趣を添ふ、而かも什寶古文書の夥多なる、賽者の望に應じて之れを展觀せしむるの便あり、されば世の好古者流は必ず一度此の幽境を探り、閑谷院裡に古什寶を觀、同時にその靜寂の風光に接せば、俗塵を洗滌し去ること正に一斗の概莫く

むばあらず

遊鉢峯

伯太領主　源　直

峯如資鉢覆醐形　法道仙人飛錫停　千歳徂來香積飯　朝昏讀誦大乘經

鉢塚山は天智帝の白雉年中、法道仙人來りて飛鉢の法を修し、その去るに方りて鉢を此峯に埋めて、その蹟を留められる故に鉢塚山と稱し、千二百餘年の舊址なり、而して鉢ヶ峯山の號之れに起因す、此塚は降雪の時と雖も積雪を見ざる奇蹟なり、口碑に傳ふ往昔盜あり、寒夜塚を發きて鉢を窃まんとす時に雷鳴大雨俄爾として臻る、盜驚き怖れ、その携ふる鍬を投じて去る、此鍬今尚寺中に藏せり、此塚山は當山奇蹟の一として世に喧傳する所たり

一月十五日　本尊御詠歌
あら尊と法の道しばよちぬれは鉢か峯より照す御佛

二月十五日　涅槃會　大師御詠歌
御佛の深き教の法の道迷の闇をあきらかにして

八月八日　本尊藥師法會　年中行事

九月廿二日　開山會

大黒天緣日

二月節分　星祭會
三月廿一日　御影供
八月十六日　施餓鬼會
十一月廿二日　佛名會
毎月七、八日　藥師如來緣日

毎月廿、廿一日　大師緣日

什寶の重なるもの

△走り大黒天立像
弘法大師の作にして、古來授福德慧圓滿の奇瑞を以て聞こへ、且つ投機事業に從事する徒には、最も機敏なる智識を與へ、且つ走り人の足の止むるの奇特あるを以て、賽者常に絕へず

△阿彌陀如來立像
行基菩薩作、美術參考品としての鑑査狀交付を享く

△仁王尊二躰
弘法大師作、舊大門に安置しありしもの、巨大の逸品なり、是亦鑑査狀交付ありたり、幼兒守護の靈驗あるを以て遠近の參詣者頗る多し

△三尊阿彌陀像
思恭筆鑑査狀交付

口櫻井神社　狹山停車場より西南四十丁、泉北郡上神谷村大字片蔵にある式内郷社なり、祭神は應神天皇、仲哀天皇及び神功皇后の三座を奉祀す、當社は推古帝の五年八月八日神靈の托宣により、郷民神祠を造營せしに創り、其後幾多の星霜を經て官武の崇敬殊に篤く、拜殿、舞殿その外壯嚴なる造營なり尚若干の神田を寄せられ、且つ巫祝の舍も數多設けられ、當時泉南の壯觀として賽詣の老若踵を接し、社を櫻井の宮と稱し、庄を若松と喚び境域實に方五丁、老松

古柏千年の梢を列ね、瑞雉の裡神殿神寂たり、その西南凡五丁に神馬の場あり北は清川緩流し、東方十五丁に午頭天王、西方十丁に山の井の天神、南五丁に して朝日山天神、北約二丁には御靈天神、東南十五丁ばかりに若宮あり、淳和帝の天長年中僧空海來りて此宮に詣し法施を行ひてより以來數次參籠せりと古記に見ねたり、爾後興廢幾多天正の末年紀州根來寺の僧兵當國を亂妨しける時當社亦その兵亂に罹り神寶記錄多く亡失し神田も當時沒收せられ、社頭殆荒涼の悲運に陷れり、亂後鄉民胥謀りて重修をなし、恒例の神事、祭禮の典例、每朝の淸儉等懈ることなしといふ、而して境內に國神社あり祭神は天照皇太神を祀る、這は垂仁帝の八年太神鳳に化して、襲峯に降臨し給ひしかば、帝の皇子登臨して其靈跡を禮祭し給ふ、後世鄉を上神鄉と呼ぶ、景行帝の二十四年神托により武內大臣に詔して社殿を造營し、且奉幣せしめ給ふ、五十五年神鳳を千種の森に移す、今の大鳥社卽ち是なり（斯る緣由より世俗當社を以て官幣大社大鳥神社の奧宮と呼び倣せり）嵯峨帝以降歷朝の御崇敬淺からず、是より先弘仁上皇親しく臨幸まし〳〵、勅して方域を定め給ひ莊田若干を寄せ、永く神領となし給ひしといふ、尙境內に古色蒼然たる石燈籠あり、金石年表に載せられ

たるものにして、考古家の最も珍重する所たり、其他十數の末社を有す就中猪神社は下の病及皮膚病に惱むもの、寄願すれば特に靈驗ありとて遠近の男女參詣するもの頗る多く、而も其病氣平癒するや、必ず神前に薪を獻じ以て神恩を謝するの奇風あり

境內現在廣さ二町步餘、老杉古松蓊鬱として晝猶暗く、潺湲たる細流之れを繞り、門前の馬場先一路坦々、長さ二百有餘間、怪松假蓋として路を挾み、華表を入れば神殿の古風なると境域の淸淨なると、兩つながら衆者をして自ら敬虔の念を起さしめ、覺へず衣襟を正さしむ、馬場先に接して櫻山あり、高さ二百尺餘全山躑躅花及胡枝花多く、且つ山中諸所に湫水池を設け、淸水洋々として鏡面と一般なり、その東方一帶に金剛、葛城の峻峯屛障の如く聳へ、西は茅海の煙波渺々として徂徠の白帆宛ら鳧の浮游するに似たり、而かも雲烟を隔て遠く淡路島の山影を模糊の裡に望み、眼界廣濶月に宜しく、叉花に好し、蔬し郡中屈指の勝概たり、而して櫻井、龜塚、山の井、襲峯及根上り三本松等の名勝舊蹟あり、當社の神寶又鮮からず、國寶に指定さるゝもの亦數點ありといふ

祭　日　　觀月祭　舊八月十五日　大祭　十月五日

□觀月祭には村内の青年數百の紅燈を掲げ、太皷を擊ち咸聲勇ましく、社前に集まり新穀を供し、後之れを撤下して、參拜者に頒つの慣例あり、遠近の老嫗群參して頗る殷賑を極む、大祭には古來より當社特傳の羯皷踊を行ふ、古雅寔に掬すべきものありその歌謠の一二を錄せん

△具足踊　一、具足は何と好まれた、皆紅と絨された　二、鎧は何と好まれた、四方島田に吹き返し、大將は鍬形挿させつゝ　三、私の弟の千松は未だ十五にはならねども、弓矢を一事と嗜なんだ　四、鎗をば何と好まれた元は黒金中たひら末は黄金の廣巻や

因みに狹山驛附近の探勝に便なる順路を紹介すれば、先づ同驛に下車し、著名なる狹山池の風光を賞し、豐公の移植されしといふ岩窪七本松を觀、高藏寶積院を經て式内郷社櫻井神社に詣し、上神谷妙見及び鉢ケ峯法道寺に詣して、その古建築と什寶とを觀覽し、瀧谷若くは長野驛に出づるを便とす、その行程約二里餘、一日の清遊に適せるものなり

○長野停車場

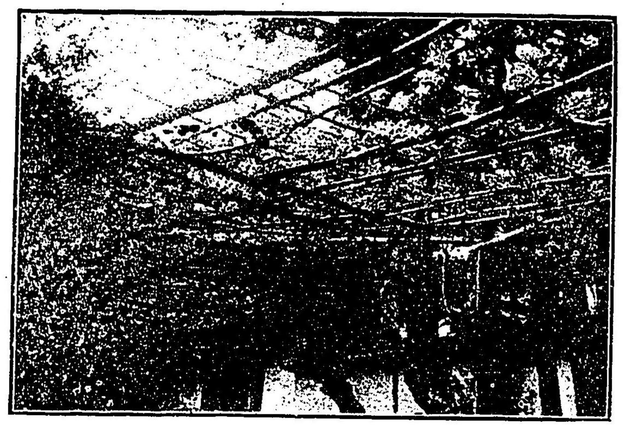
□長野遊園　長野停車場前にあり、廣袤約三萬坪、石川の清流に臨みたる高燥の丘陵一帶の地域を占め、閑雅幽邃なる遊園にして、陽春駘蕩の候より、金風

玉露の季に至るまで、遊賞に値ひするもの絶ゆることなし、殊に長者の瀧は直下三十尺、直ちに石川の清流に濺ぐ、夏時の清遊に方り對岸の無料休憩所若くは料亭に憩ひ赤裸々の軀を跳らして、石川に投じ徒渉して飛瀑の下に到れば、飛沫球となりて渾身を濕ほし、躬先づ膚に粟するを覺へしむ、既にして飛瀑に打たるゝに方りては、眞個快絶を叫ばしむるものあり、而かも水勢甚た激しからざるが故に、婦人小兒輩と雖も之れに浴するに適し、大阪附近稀有の名瀑たり、浴し罷で休憩一番更に遊園を一周すれば、諸越橋、錦溪山、鳴瀧、鳴瀧橋箸塚、躑躅ケ丘、丸山、長者趾（大運動場）黄金塚、黄金井、富山、楠正儀卿駒駐の舊址、萩の丘、行者岩及御廟河原等到る處に散在し、眺望絶佳にして山水の勝概兼ね備はり、風光の明媚なると遊戲機關の完備せると、料亭、温泉場及び茶亭の低廉親切なるとは、大阪附近遊園地には爰所の外他に見るべからざる好箇の仙境なり、歸途石川の清流に枕める各旅舘の温泉に浴し俗塵を洗ひ、名産の鯉、鰻に飽き長野發の終列車に搭じ、歸程に上らば、夢魂猶ほ爰所に逍遥するの概あり

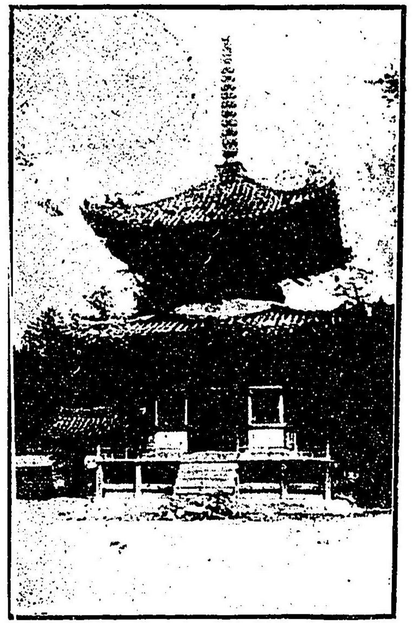
□錦溪山極樂寺　長野停車場の東北約三丁、南河内郡長野村大字古野字寺屋敷

にあり、融通念佛宗の中本山にして、安養聚院と號す、本尊阿彌陀如來脇立觀音勢至の二菩薩を安置す、茲にその濫觴を繹ぬるに、後醍醐帝の元亨二年、當宗中興の偉僧法明上人(一品舍人親王の裔にして、本姓清原氏)の開創なり、時に上人攝河の二州に於て、六別寺を定めらるゝに泝み、當山を以てその一に擬せらる、上人遷化の後殆ど三百年間の相承紀傳散佚して傳らず、慶長八年に至り本郡上原村の人祐算上人(俗姓中村氏、與次郎太夫と稱す)入りて寺務を董すや、數十の末寺を有し寺門頗る繁榮せり、尋いで上人庫裡の改築を行ひ、江州膳所城主本多侯の歸依を享け、同家歷代の香花院となり、金穀の寄附甚だ渥し、其後十七世を經て、洞山上人董寺の時即ち寛政年中堂宇を改築す、現在の堂宇即ち是れなり、境内に藥王殿あり、茲は往古爰所に老杉五株ありて、その根より靈泉湧出せしが偶々推古帝の御宇聖德太子、此靈泉を汲みて諸人に湯沐を爲さしめ給ひしに、諸病平癒の奇効ありしかば、太子手づから藥師佛の像を刻し彼の靈泉の側に一伽藍を草創し給ひ、名づけて温泉寺と稱す、其後兵燹に罹り堂宇烏有に歸す、即ち有信の徒胥謀り、爰に大塔の在りし址に一小院を建つこれ現今の藥王殿なり、法明上人の當山を草創せらるゝや、温泉寺は當山に

法道寺の全景

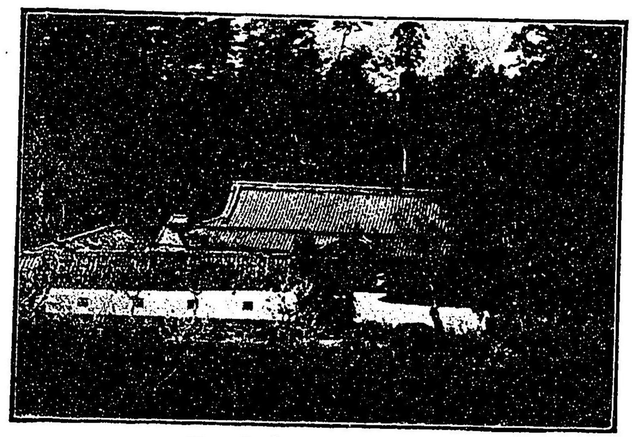


法道寺門前ノ白藤

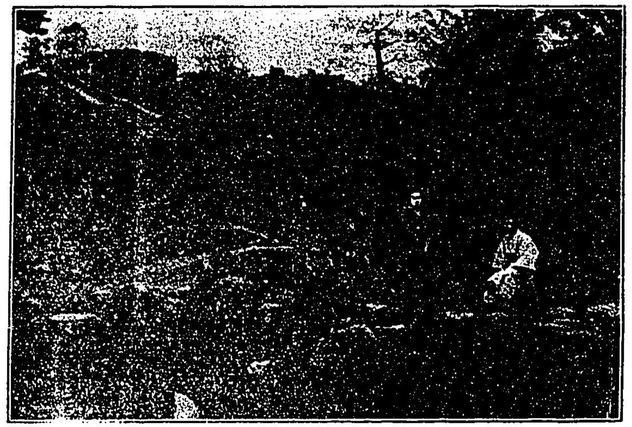


法道寺の多寶塔

法道寺中門



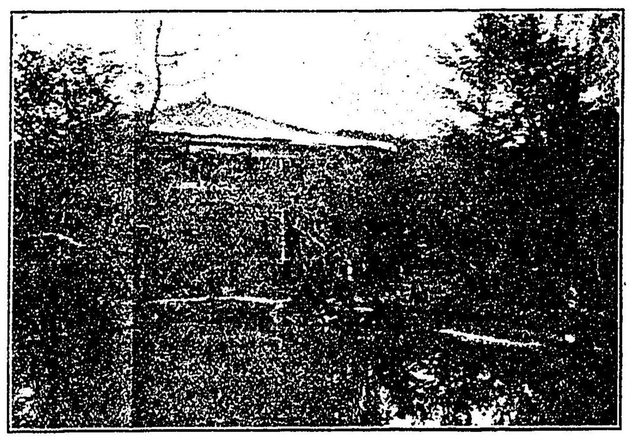
法道寺本坊



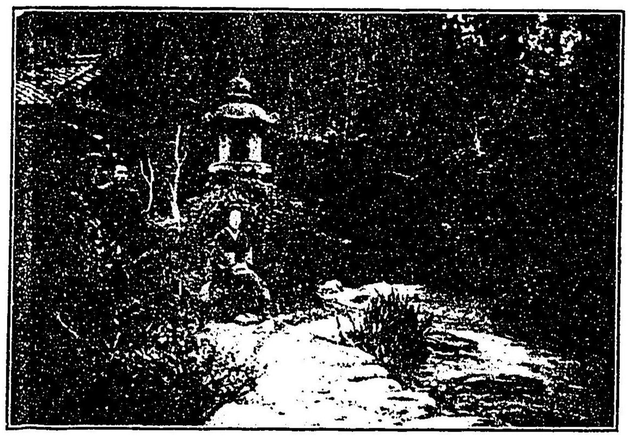
錦溪温泉ノ庭園（其二）

三日市川ヨリ錦溪温泉ヲ望ム

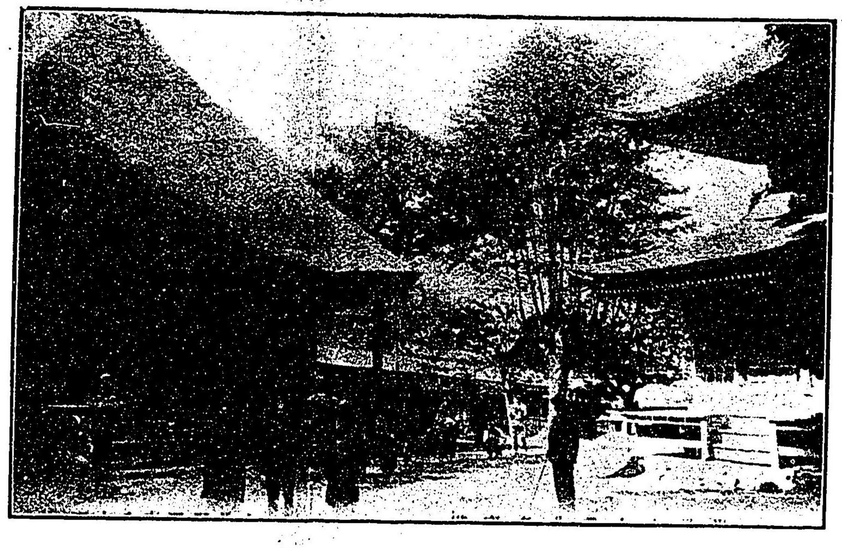
（四其）園庭ノ泉温溪錦



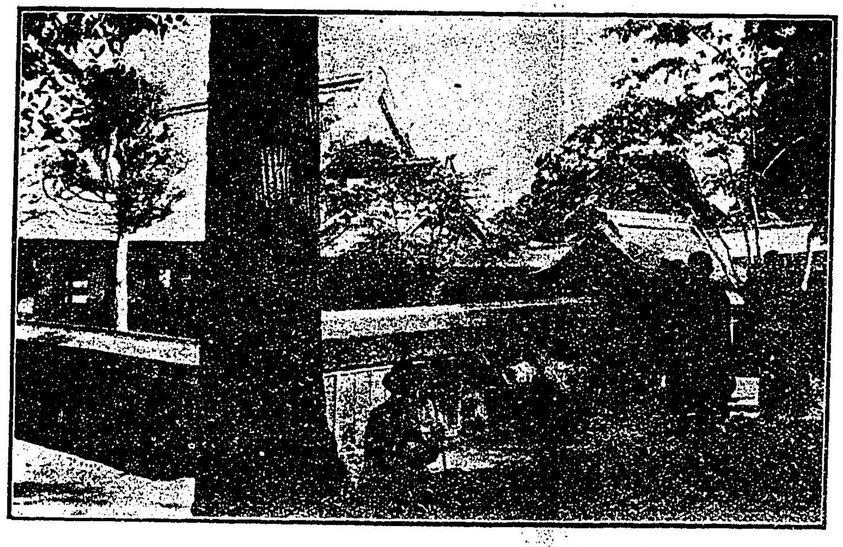
（三其）園庭ノ泉温溪錦



（一其）園庭ノ泉温溪錦



岩湧山本堂及多寶塔



岩湧山大客殿

門山同

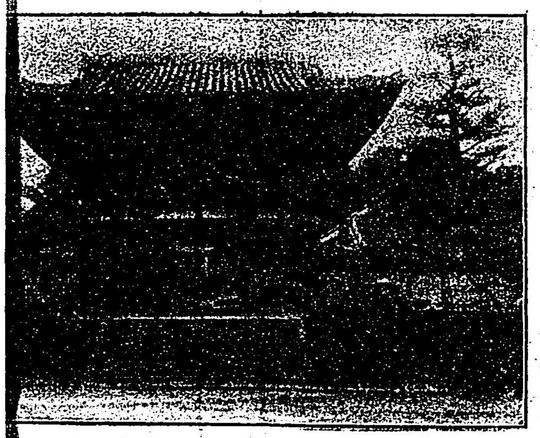
堂本寺剛金江山野ヲ

神建ノ公殿正楠同

塔寶多同

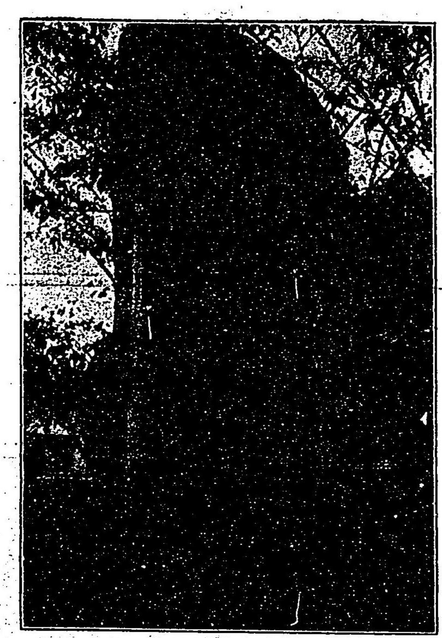
内境同

亭月觀同

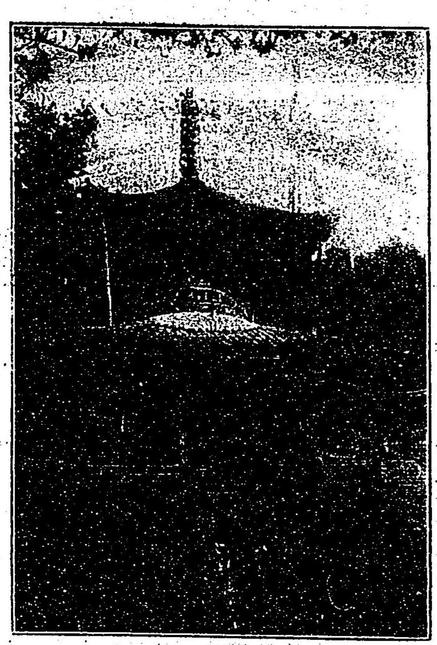


同　山　門

天野山金剛寺本堂

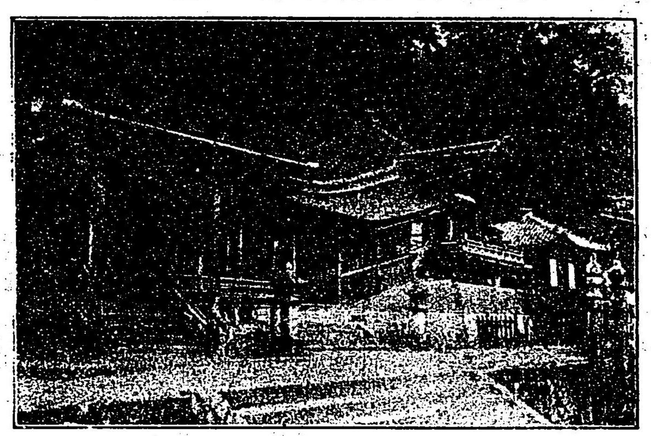


同　楠正儀公ノ建碑

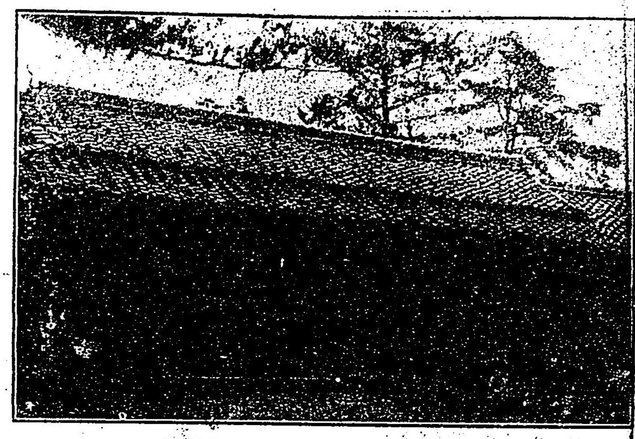


同　多寶塔

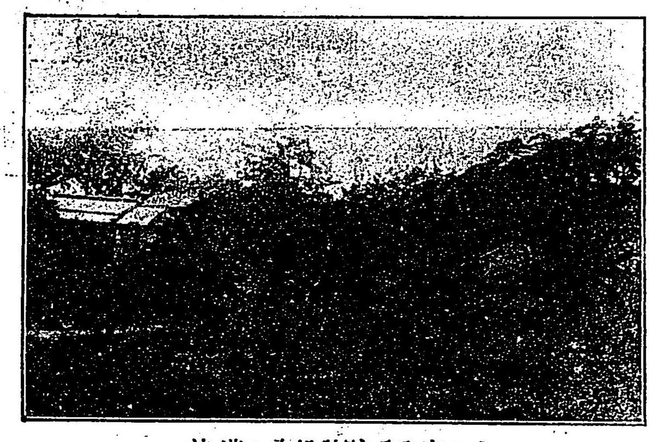
同　境　内



同　觀月亭

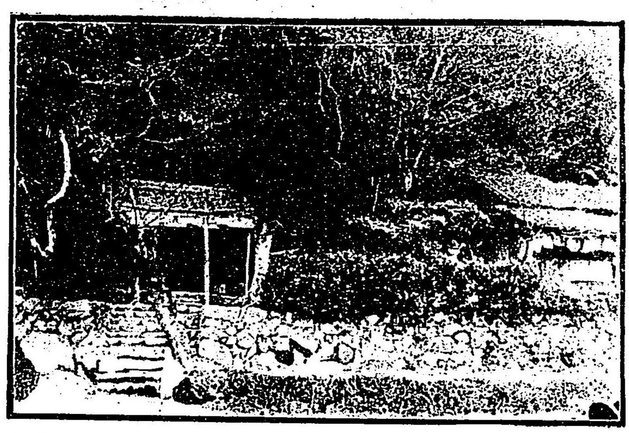


上ノ宮八幡神社本殿



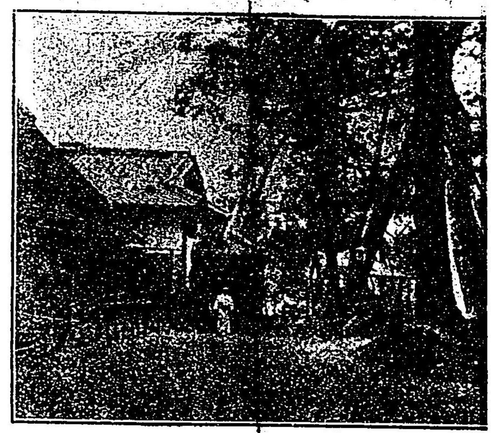
上ノ宮八幡神社境内ト蓮池

上ノ宮興禪寺本堂ト庫裡



腰上神社

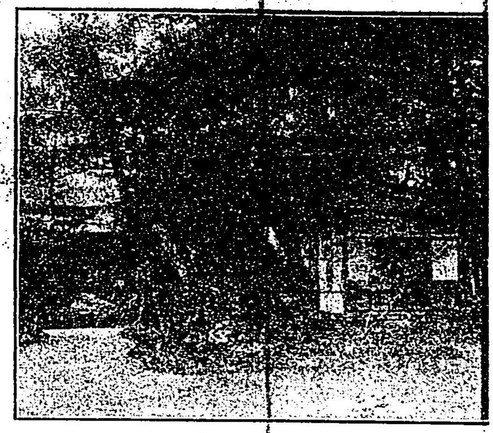
會席料理
御旅館



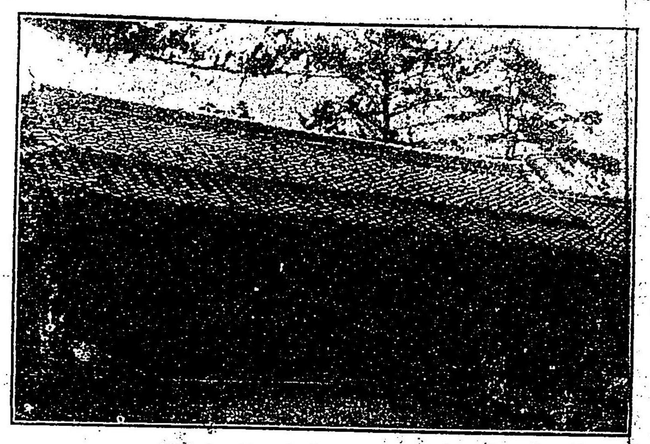
潮ノ宮温泉

高野登山鐵道長野驛ヨリ
北へ數丁金胎寺城趾山麓
潮の宮温泉

潮ノ宮温泉ト石川ノ清流

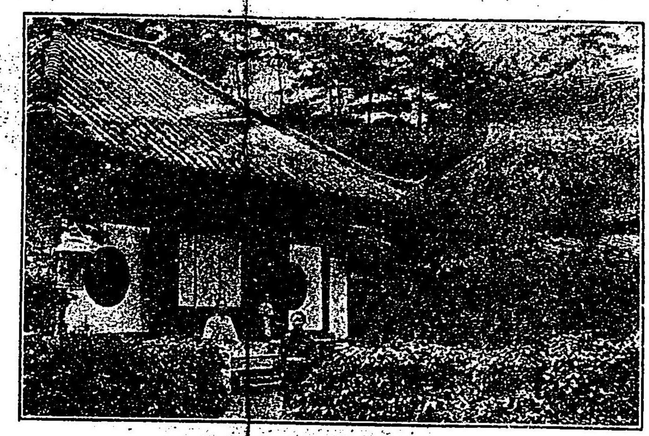


潮ノ宮温泉ノ庭園及客室

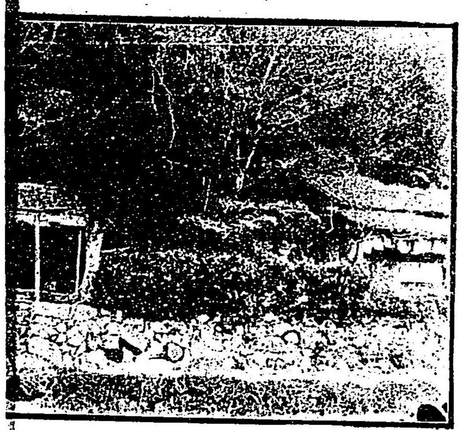


上ノ宮八幡神社本殿

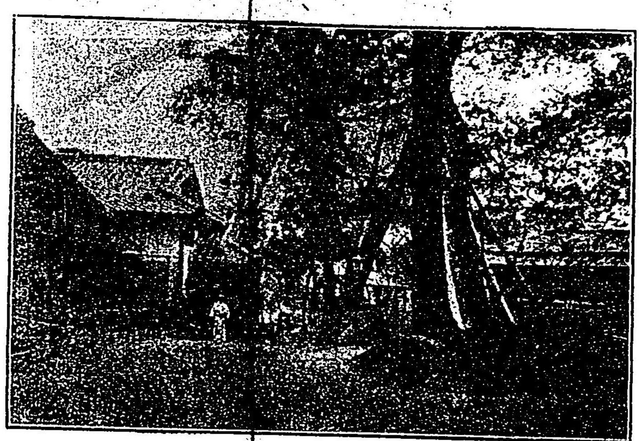
上ノ宮八幡神社境内ト蓮池



上ノ宮興禪寺本堂ト庫裡



腰上神社

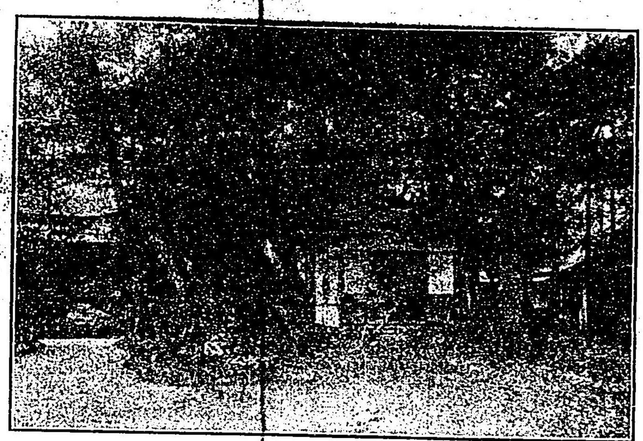


潮ノ宮温泉

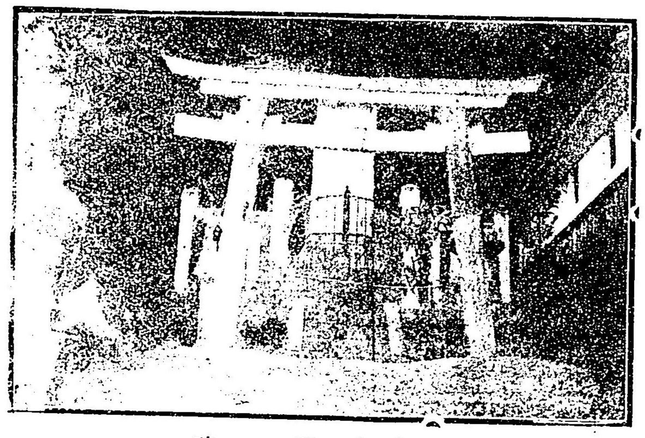
會席料理 御旅館

潮ノ宮温泉ト石川ノ青

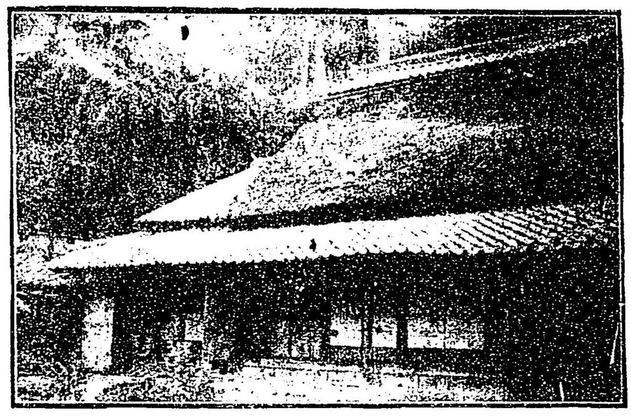
高野登山鐵道長野驛ヨリ北へ數丁金胎寺城趾山麓 潮の宮温泉



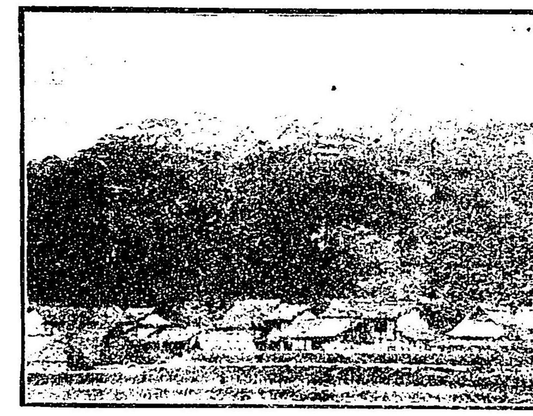
潮ノ宮温泉ノ庭園及客室



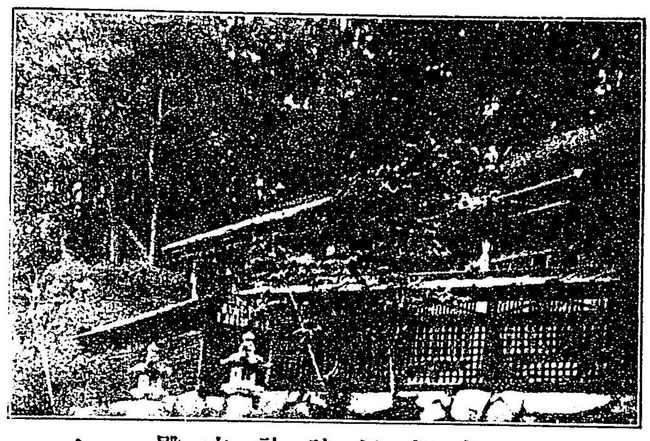
大江時親ノ碑



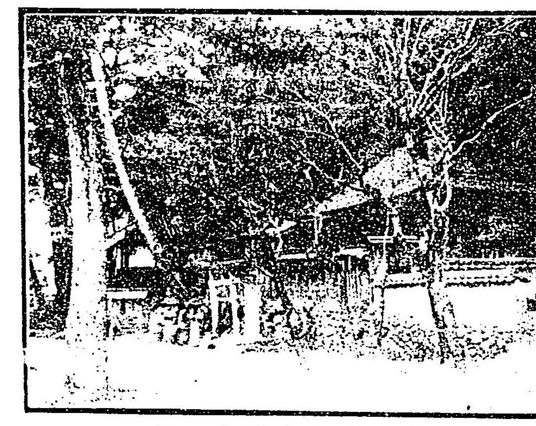
舊家大江家



鳥帽子形山城趾

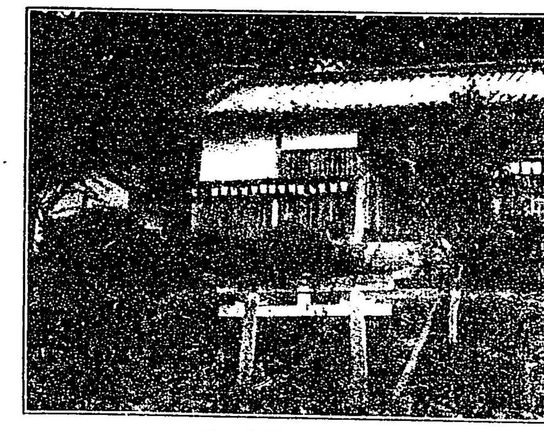


加賀田神社本殿

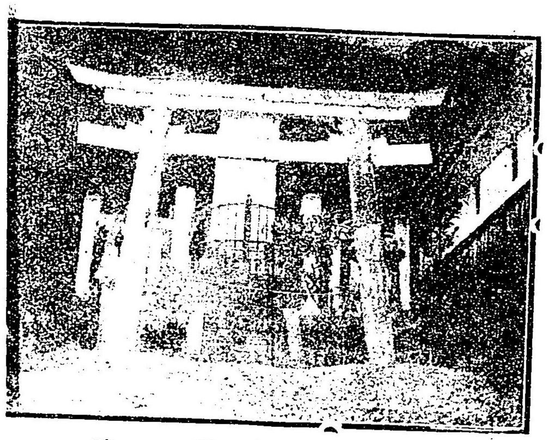


鳥帽子形神社楠公武威ノ松

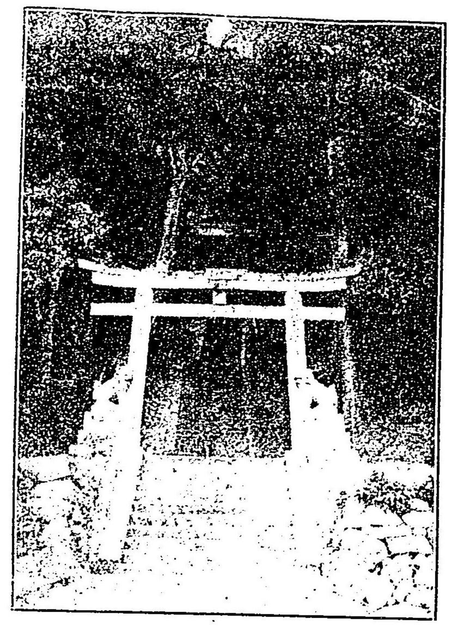
加賀田村一國一宇ノ庚申堂



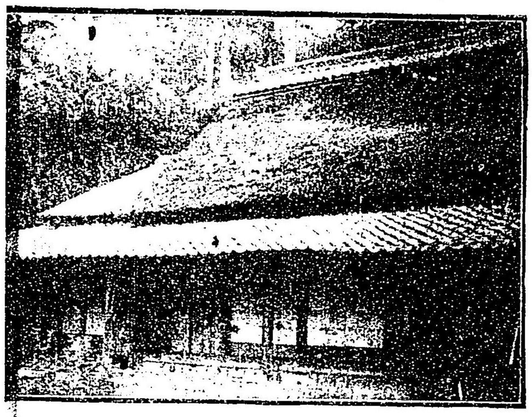
加賀田神社



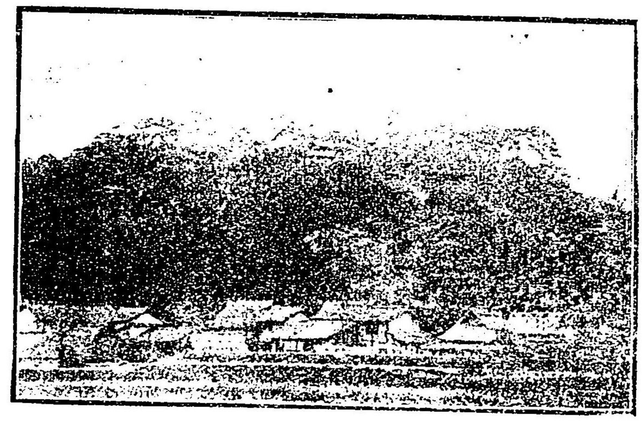
大江時親ノ碑



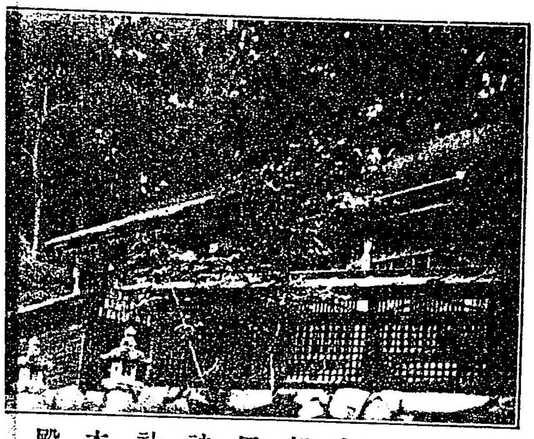
烏帽子形八幡神社



舊家大江家



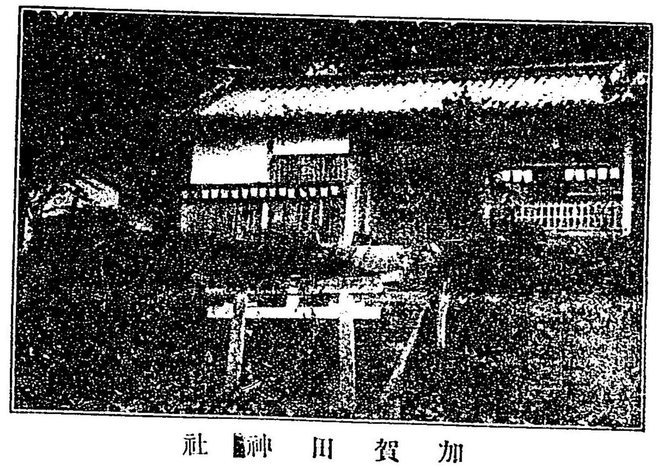
烏帽子形山城址



加賀田神社本殿

烏帽子形神社楠公武威ノ松

加賀田村一國一宇ノ庚申堂

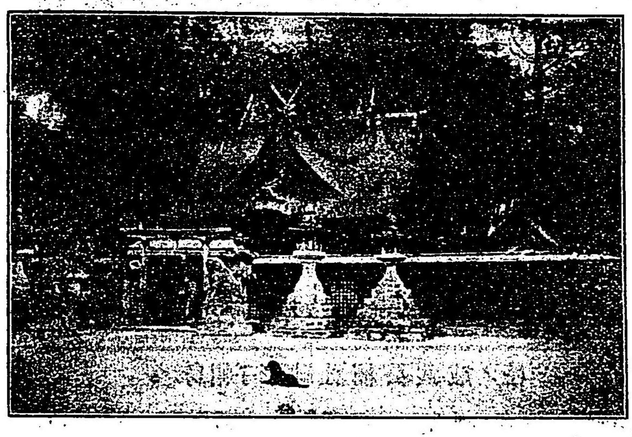


加賀田神社

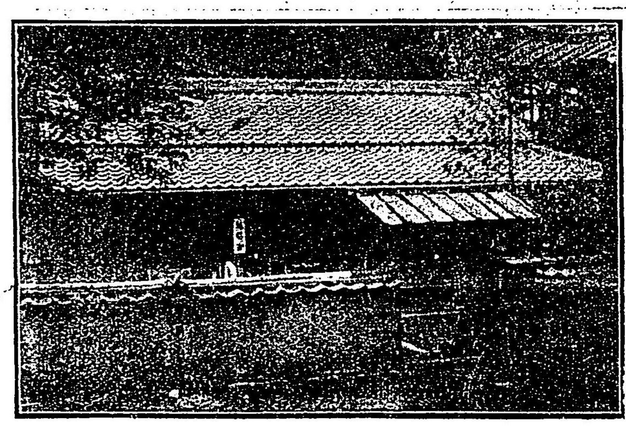
極樂寺ノ正門

極樂寺ノ遊園

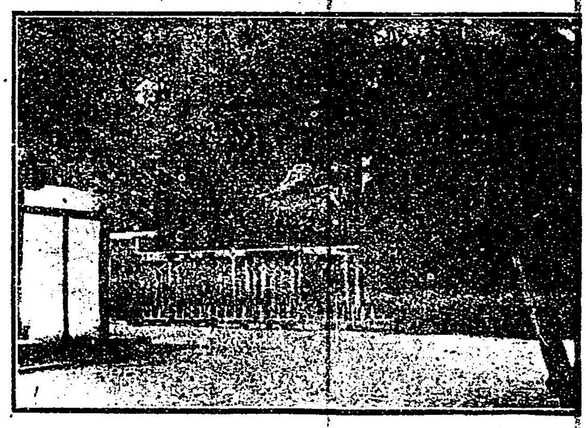
瀧谷不動ノ瀧



清崎神社本殿



清崎神社々務所



極樂寺

極樂寺ノ山門

極樂寺ノ庭園

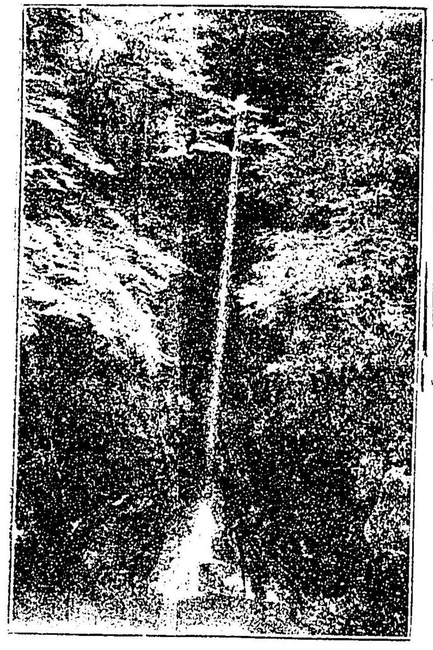
滝谷不動ノ滝

清澤神社本殿

清澤神社々務所

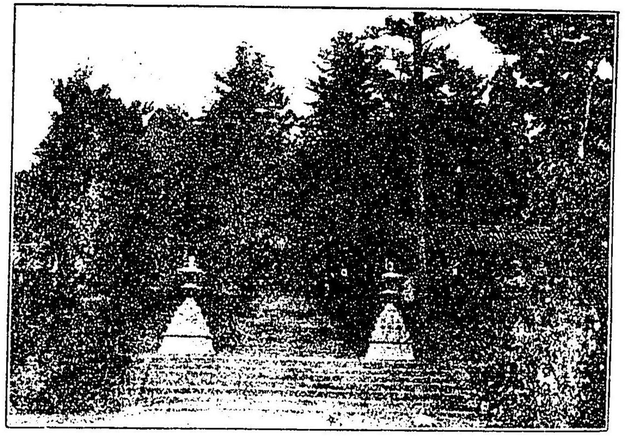
櫻井神社馬場先及遙外櫻山之景

櫻井神社本殿

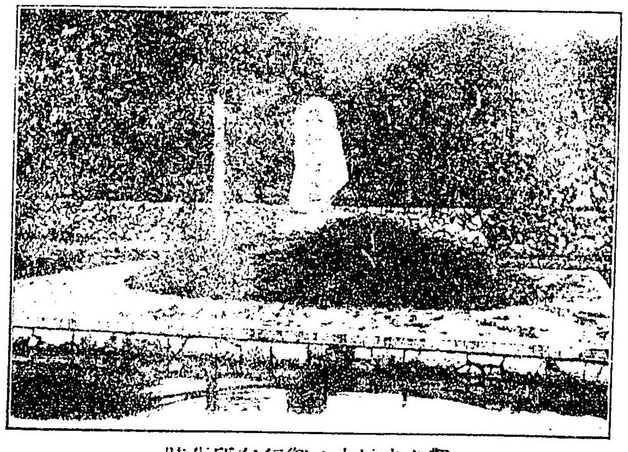


（一其）瀧ノ葉紅寺心觀

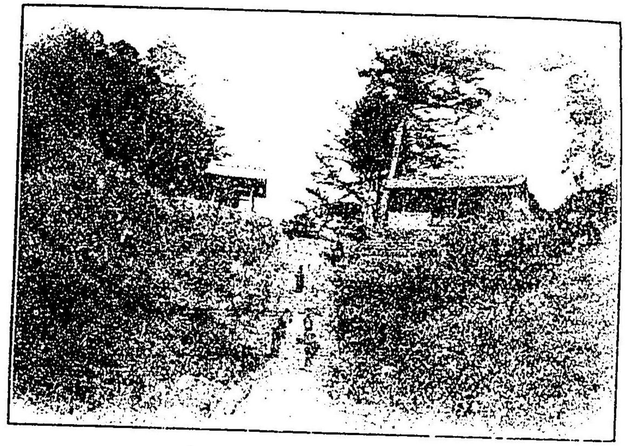
塚首公成正楠内境寺心觀



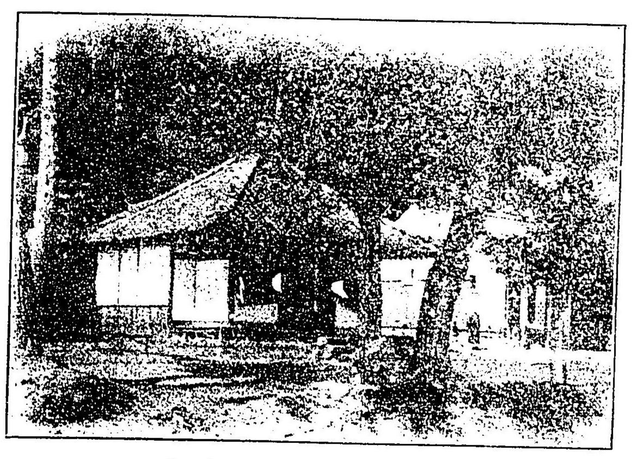
面正ノ内境寺心觀



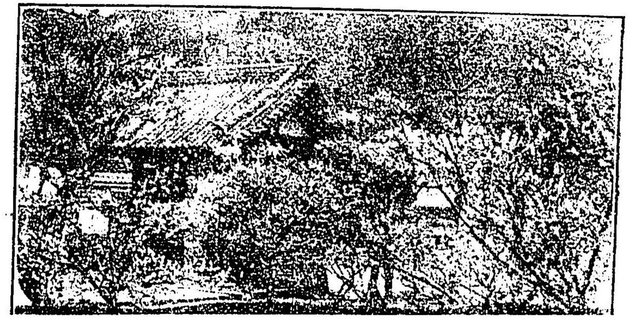
踏雪所在行御ノ内境寺心觀



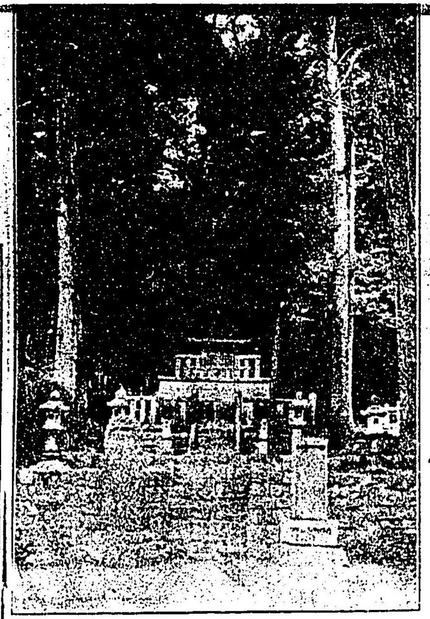
寺合河



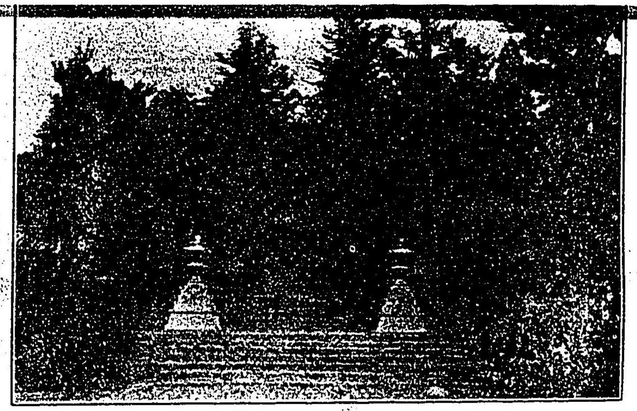
庫寶及堂本寺合河



（一其）瀧ノ葉紅寺心觀

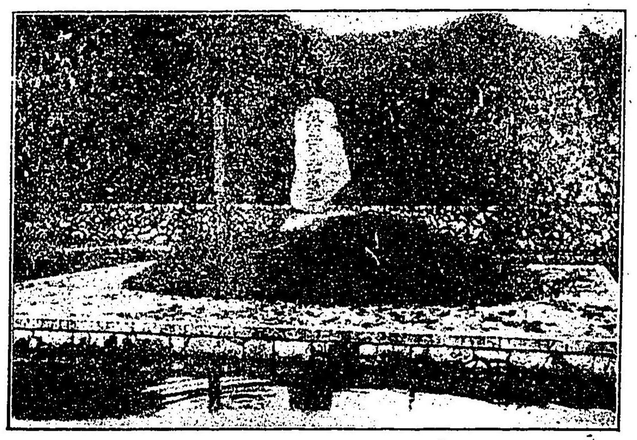


塚首公成正楠內境寺心觀

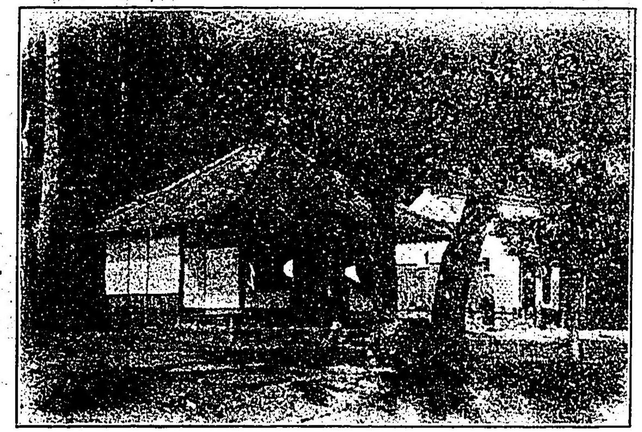


面正ノ內境寺心觀

寺　合　河

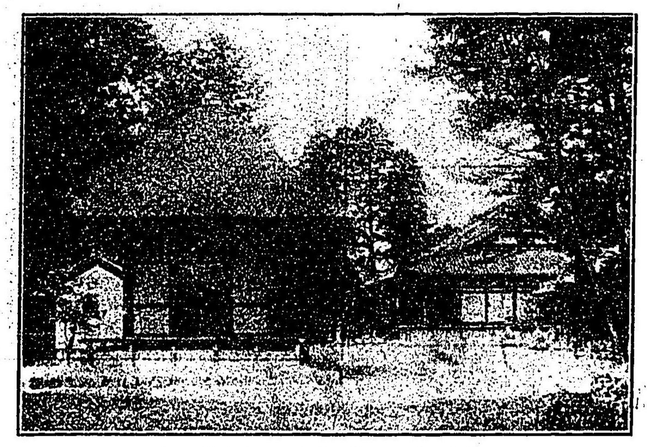


蹟蹕所在行御ノ內境寺心觀

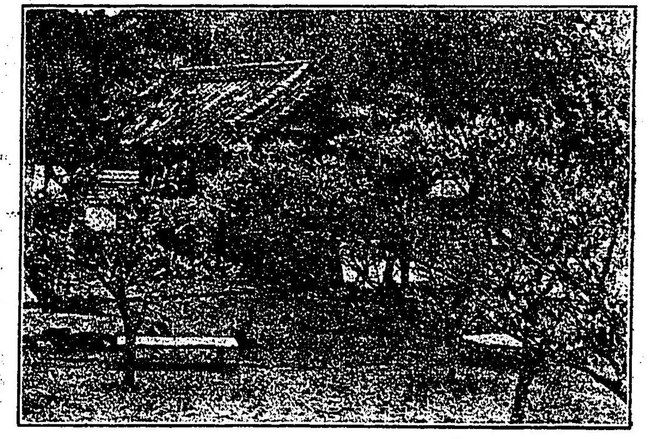


庫寶及堂本寺合河

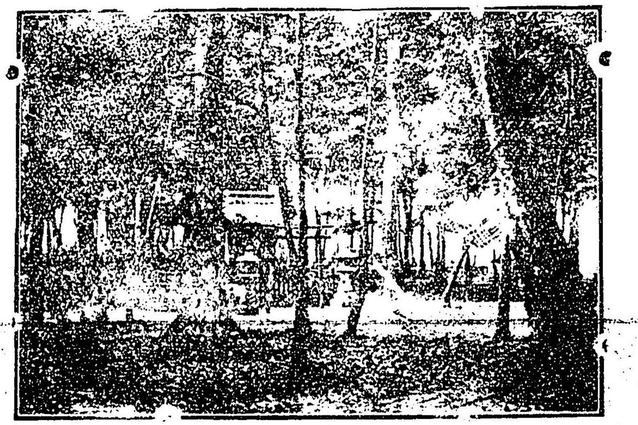
（二其）瀧ノ葉紅寺心觀



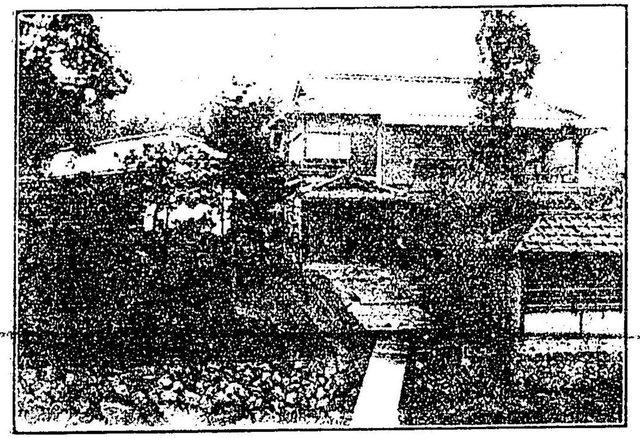
塔寶多及堂金內境寺心觀



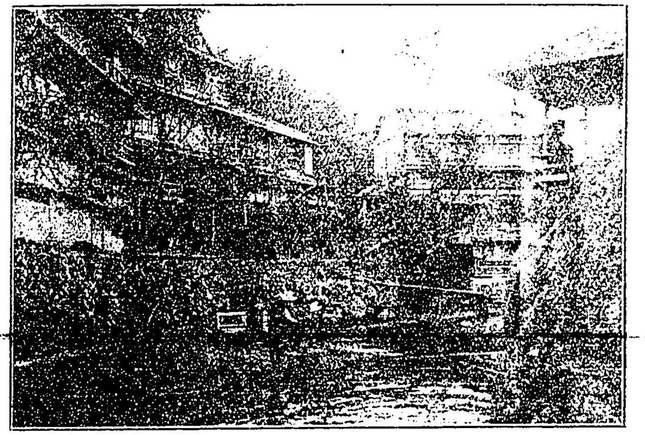
園梅ノ前門寺心觀



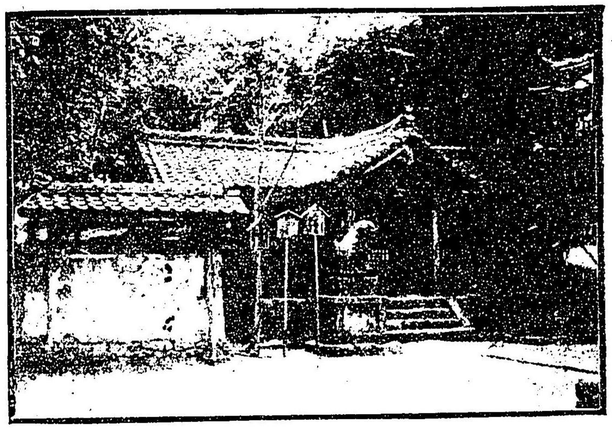
苑神社神代西



樓　力　一



樓水錦地園遊野長

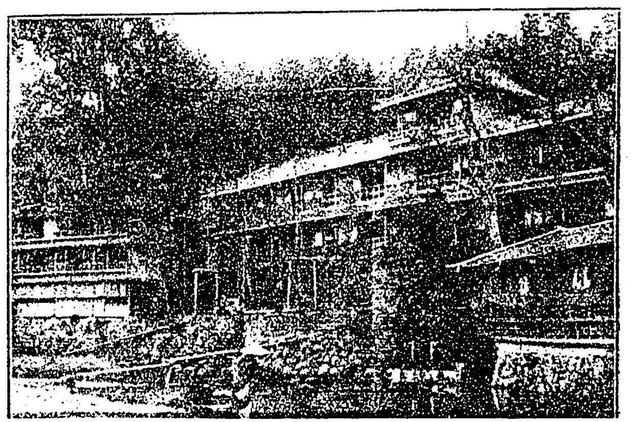


社神代西

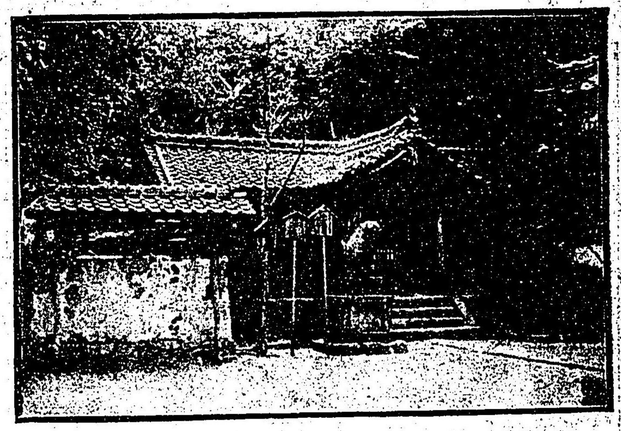
温泉
旅館
御料理
高野登山鐵道長野驛南
錦水樓
（電話長野六番）

温泉
料理
御旅館
高野登山鐵道長野遊園内
一力樓

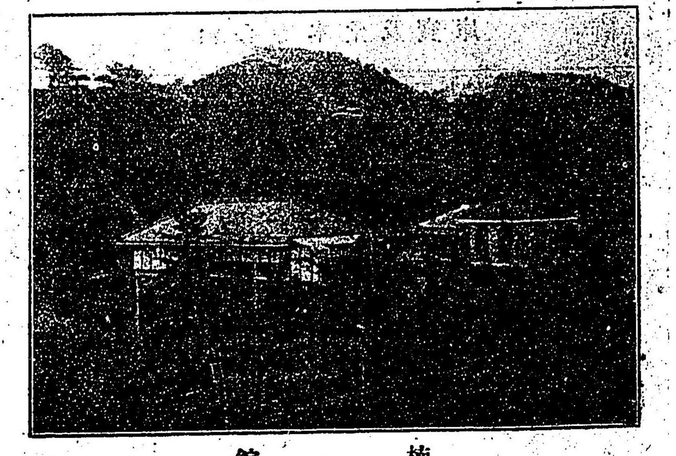
温泉
料理
御旅館
高野登山鐵道長野遊園
楠



西代神社神苑



西代神社

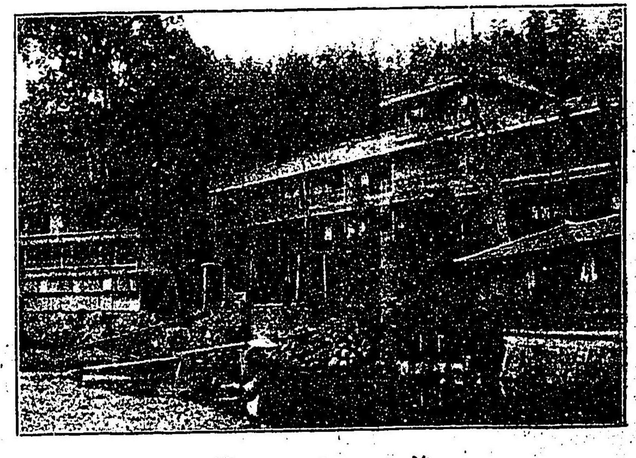


楠館

温泉
料理
御旅館
高野登山鐵道長野遊園内
楠館

一力樓

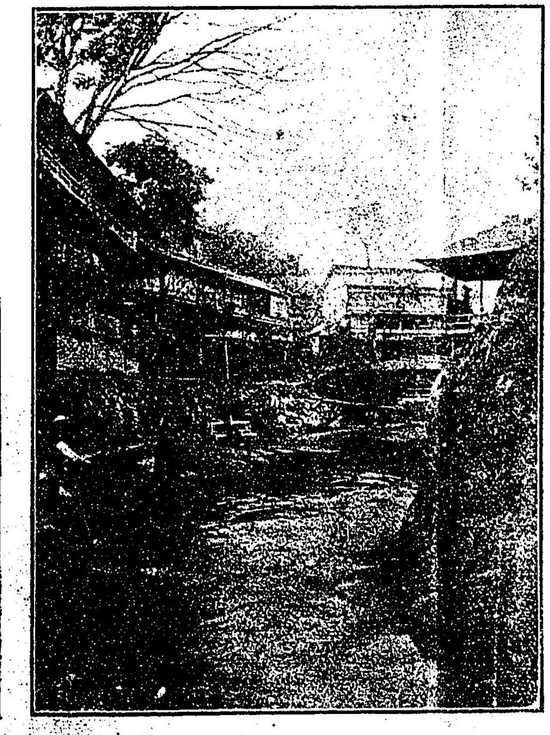
温泉
料理
御旅館
高野登山鐵道長野遊園内
一力樓



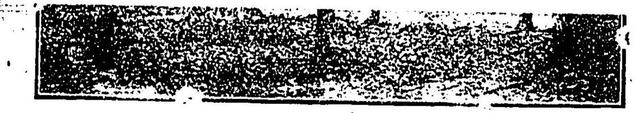
錦水樓

温泉
旅館
御料理
高野登山鐵道長野驛南
錦水樓
電話長野（六番）

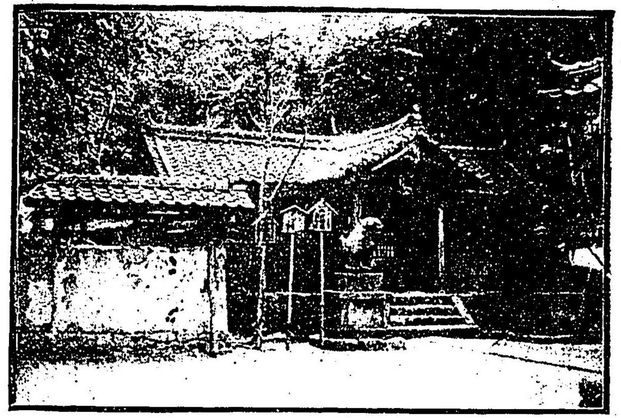
長野遊園地錦水樓



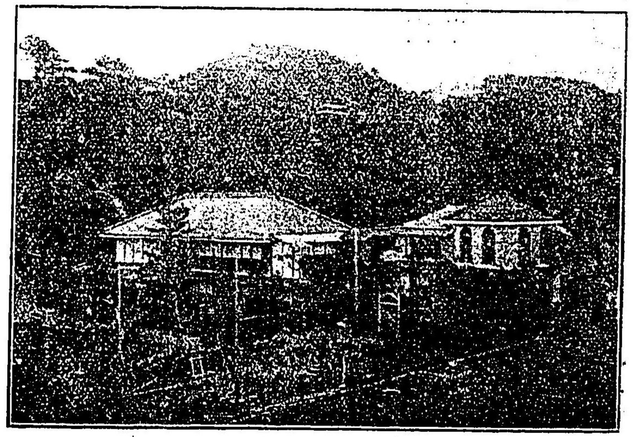
錦水樓



西代神社神苑



西代神社



楠館

隣接せるに因り何時しか當山末寺とこそはなりにけり

境域は元錦部郡の中央に位し、地勢高燥最も眺望に富み、東は西條川を隔てゝ近く金胎寺城址に對し、その山勢連亙し岩渕の峻峯遠く南方に聳ゆ、西北は地勢平坦にして村落相連りて所在に點々たり、本堂、庫裡、鐘樓及び觀音堂孰れも宏壯の構へ、山門亦古雅頗る名刹たるを偲ばしむ、その書院は閑雅幽邃の趣を具へ、躬一度この寺觀に入れば、自づから脫俗の想あらしむ、而かも茂林脩竹堂宇を繞るに臻りては特に一層の風趣莫くむばあらず、不斷の松韻、琅玕の清風と相和して聞へ、間々磬聲梵唄と取次に人の心耳を澄ましむるが如き、寔に塵外の別天地に在ると一般の概あり、現今の境内四千有餘坪、盡く是れ幽清の勝地たるを以て、現住清原章山師之れを公開して衆庶偕樂の一遊園となし長野遊園に遊ぶの人士をして、この別乾坤に遊樂を縱まにせしめつゝあり、亦是昇平の一樂事ならずんばあらず

遊極樂寺卽事　　損軒迂人

河山高聳紀山低　村落相連路欲迷　驟雨稍霽天漏日　輕雷遙在數峯西

極樂寺年中行事

一月十五日　大般若經轉讀　三　月　彼岸會

四月三日　宗祖(承應大師)御忌　八月廿日　大施餓鬼
九月　彼岸會　十一月十四日　十夜法要

□長野神社　長野遊園地に接したる處にあり、祭神は素盞嗚尊、外伊奘諾尊、八幡大神、高良明神、伊奘冊尊、天兒屋根命を相殿に奉齊す、外に末社菅原天神、事代主命を祀る、創立の年代不詳なれども、往昔當地方に廿五森の鎭守あり、當社は其の觸頭に指定せられしと云ふ、境内に安置しある蛭子神社の祭典は毎年一月九日、十日に執行し、當地方の福の神とて、諸人の信仰篤く、近郷の老若男女群集參詣し、さしも廣濶なる境内も殆ど立錐の地なしと云ふ、地域自ら林丘の趣を爲し、古松雜樹蓊蔚として天に參し、又損てがたきの仙境なり、毎年十月九日、十日大祭を執行す

□寶珠峯山河合寺　長野遊園の隣地にあり、境内總てを東遊園地と稱す、眞言宗御室派にして役の行者開基なりと傳ふ、本尊十一面觀世音菩薩を安置す、皇極帝の二年勅願所と定められしより爾來皇室の崇敬最も厚く、其の當時は七堂伽藍ありて南河内名刹の一として、南北朝の頃は頗る旺盛を極めしが、後幾多の星霜を經て、堂塔皆舊觀を失し、維新後終に七間四面の本堂をも壞廢し、今は僅に三間四面の小堂あるのみ、而して本尊觀世音菩薩は、厄除の守護尊とし

て、一度祈誓を凝せば炎害立どころに外づし給ふとて、世に外つれ觀音と稱し靈驗赫々たるものあるより、近來渇仰歸依の徒多くなりたるを以て、斯る名刹の湮滅に歸するを嘆き、現住及有志中伽藍の再興と遊園地の設置に盡瘁しつゝあれば、早晩機の到るや面目一新大に看るべきものあらん、境内閑雅風光明媚にして、櫻花、藤、胡枝花等ありて春秋の眺め飽かす、地高燥なるを以て、瞰望には頗る適當の地たり、眼前東に金剛葛城、南に岩湧山等は長蛇の如き一帶の山脈を隔てゝ眺望し、人をして俗塵を一掃せしむ、されば納涼觀月雪景等を賞するには又頗る恰妙の仙境なり、境内に楠公遺愛の碑及び碑文等あり、好古家の徒一見せば、史料として研究すべきものあらん、什寶の重なるものは、多聞天王、大日如來、持國天王(右三佛体は國寶なり)役の行者像(自作)賓頭盧尊者藥師如來(弘法大師の作)鬼瓦(行基菩薩の作)後伏見帝の御宸翰、楠正儀公の眞筆等なり

□西代神社　長野停車場より西三丁南河内郡長野町大字西代にあり、祭神は國常立命、素盞嗚尊、足仲彦命、氣長足比賣命、譽田別命の五座にして尙武内宿稱、菅相公を配祀す、末社に蛭子、大黑天、稻荷明神社等あり、當社創建の年

代審かならざれども、往昔大楠公篤く當社を信仰せられ、金胎寺城の守護神と崇められ、又南朝の末楠正儀公天野山に、後村上帝を奉じ守護まいらせけるとき、帝深く當社に歸依まし〳〵かしこくも、吉野行幸の節は、當社に御駐輦あらせられしと云ふ、中昔本多伊豫守も特に當社を信仰せられ、正德六年献納せられし神輿矛手洗鉢等今尚これを存せり、位置は天野街道の右側にあり遙かに金剛葛城の高峯を望み、前に金胎寺の城趾をひかへ、東觀心寺の古跡に遠からず、西天野南槇尾山及光滝寺の勝地に近し、境内閑雅幽邃にして夏凉しく、神苑は雜樹蓊蔚として天に參し、見るからに神寂び禪愔の氣旁礴として、轉た遊子斷腸の因たらしむ

當社祭典は一月十日蛭子祭、二月初午、稻荷祭十月十一日、十二日、大祭を執行す

□烏帽子形神社　長野停車場より西南六丁南河内郡三日市村大字喜多烏帽子形城跡山の半腹にありて、烏帽子形八幡神社と稱し現今村社なり、祭神は八幡大神、仲哀天皇、神功皇后、素盞烏尊の四柱なり、烏帽子形城の鎭守として大楠公初め正行公正儀公の信仰殊に篤かりき、現今の社殿は元和三年楠氏の一族甲

斐庄喜右衞門正保が、天王寺普請奉行の折其餘材を以て再建せしものなり、本殿は東面に向ひ後に烏帽子形山を負ひ前面荒田峯の古戰場と相對し眺望佳絶なり、當社に往昔より烏帽子形德壽院と号せし天台宗の寺院あり、寛永年中より德川家の命により、社僧德壽院、觀心寺槇本院外三院と倶に當社に於て天下泰平祈願の爲め、每年正五九月に永代大般若經轉讀を行ひしと云ふ、此經卷は楠氏一族の寄書にして、稀代の珍寶なり、明治維新の際廢寺なりしにより現今觀心寺の寶物となり居れり、尚當社には宇治黃檗山の二世木庵禪師眞筆八幡宮と書したる額、又藏經所と書したる扁額を藏せり、八幡宮の額は元石の華表に揚げありしに、其の前を馬上の儘通行する者は必ず落馬すと稱せしにより、現今は扁額と共に寶庫に藏む、又南朝の皇子金藏院忠奠王戰勝祈念の爲め、御參詣の砌、御腰をかけさせ給ひし「御座石」社前にあり、外に「楠公武威の松」あり又正儀公手植の松あり今尚繁茂して境内の風趣を添ふ、後醍醐天皇大和賀名生へ御幸の砌、當烏帽子形城にありし半鐘を軍用として携へ行かせ給へり、其半鐘は當時皇居たりし堀重信方現在す、當社の大祭は每年七月十六日夏祭、十月十日秋祭を執行す

□烏帽子形城跡　烏帽子形山にあり正平の後楠正儀和田正武等此要害に據り、麓の大軍と戰ひし所にして之を狐塚の古戰場と稱し今に存す、後弘治永錄の頃碓井大和守定純全因幡守定阿居城して畠山氏に屬す、慶長以後楠氏の一族甲斐庄喜右衞門正保德川氏に從ひ此地を領邑せり、絕頂は東西四十間南北五十間餘にして、一面平坦なり北方石壁の削立すること百餘間之れを本丸の跡とす、天守櫓櫻は所々に形跡を留む、頂上よりの展望は東に金剛葛城の諸峯近くは龍泉金胎寺の諸城跡を望み、西に天野の峯續き北に曳ては遠く攝河の平原を望む、西北に錦溪の郊野を瞰下し西條川の淸流東西に橫斷するを見る、後方の老松風に鳴て千古の歷史を語るに至つては、又捨てかたき趣味あり山下の川岸に大なる巖を產す、其の季に於ては幾万の螢火河水に映して美觀好景言外に絕す、之を柳川原の管と稱す、又此山中に多くの松茸を產するを以て、其の季に至れば茸狩の雅俗群集す

□三日市錦溪温泉　長野停車場より西南七丁南河內郡三日市村、三日市川の邊緣樹濃き處にあり、温泉效能、胃腸病、子宮病、僂麻質斯、皮膚病、沁尿病線病、氣發支病、筋滑病等に著しき效能あり、抑も當温泉の名は辱なくも故山

階宮殿下の命名させたまひし有名の温泉なり、現主人は當天然の勝地を最も便利且、平民的に公衆の前に開放して、四季の遊游地となし又庭園の北邱即ち三日市川岸眺望頗る良き處に新座敷を設けたれは遊覽客をして四時の攝養に適せしむ、園內數千坪、最も景勝に富む、もし夫れ初春の陽炎若草の燃ゆる頃は、淸楚なる梅花香ひ床しく咲き亂れ、春風駘蕩の季に至れは、無數の櫻花爛漫としてその姸を爭ひ、初夏の候園內の牡丹芍藥、藤花山吹花菖蒲躑躅等滿關の頃は眼も覺めん斗りなり、殊に梢に啼き過ぐる杜鵑の聲と、浴後檻干に依りて輕衫を薰風に吹かせつゝ、三日市川の巖角に幽韻を奏する河鹿の聲を聞くなどは、洵に三伏の暑熱は何れへか失せ去り此所斗りは晩秋の節と異ならざるの感あらしむ、秋の紅葉に先たち句日の頃は近鄕の山中松蔴最も多く頗る美味にして其名畿內に名高し)又蔴狩の興を催さしむ、時雨そぼ降る初冬の日散り殘る紅葉の色彌々濃きを賞づるは一入の雅趣なんめり、後園悉く胡枝花ならざるはなく、花時に至れば蕊を含むの花、艷麗妍を競ひ、得も言はれざる風情あり、閑亭に相對して淺酌低唱、碍障を透して、近くは、烏帽子形城趾、遠くは金剛葛城の雪景を賞するに至りては、更に快な

らずとせんや、庭前に細流あり、水勢恰も渓間の如く、水勢滔々として、激湍岩石を噛み洵に庭中の奇観にして珍賞に値すべきものなり

口上の宮赤阪神社　長野停車場より南十五丁南河内郡三日市村字上の宮にあり

祭神は應神天皇(八幡大神)を奉祀せり、口碑に依れば元當社は山城男山八幡宮勅祭に方りて、當社氏子の壯丁その興丁の分神にして、されば例年男山八幡宮勅祭に方りて、當社氏子の壯丁その興丁として、同地へ趣きて其の任に膺りしと云ふ當社の例祭は七月十六日夏祭、十月十一日秋祭を執行す

口八幡山與禪寺　當寺は赤阪神社と境域を俱にす、曹洞宗にして大阪鳳林寺末開山は養愚大和尚(和尚は膳所本多侯家老の次男なり)なり、本尊阿彌陀如來は名匠春日の作なり、昔は赤阪神社の神宮寺なりしが、維新の際分離するに至れり、寺内別に勝軍地藏尊を安置す、本尊は甲冑を帥けたる不思儀の尊像にして、日本三躰の一なりと傳ふ、當地藏尊に祈願を籠むれば傷害を蒙むる事なしとて、遠近よりの參詣者常に絶へず、且つて日清日露兩戰役に、當村より出征したる軍人にて、拔群の功を顯はしたる者多々あり、而かも一人として傷害を請けたるものなしと云ふ

毎年春季彼岸には大般若經秋季彼岸には大施餓鬼を修行す

赤阪神社、與禪寺境内は高燥の地にして、頗る眺望に富み攝河泉の山野阪市の甍を双眸に望み、眼下に天見川の溪流、高野街道は活畫圖の如き妙趣あり、土地閑靜にして些との塵埃を止めず、倘し夫れ春淺く陽炎若草に燃ゆる頃は境内に清楚なる梅花床しく咲き亂れ、春風駘蕩の季に至れば、無數の櫻花烟嬝としてその姸を爭ひ、幾多の楓樹は、若葉、青葉は云ふも更なり、その紅葉に至りては、境内悉く紅錦に化せりと云ふも溢美の言に非ざるなり、斯る景勝の地なれば村の有志者間に於て遊園地となさんとて、專ら計畫中なり、晩秋の候後丘の山中に松蕈を生す、此の頃に至れば阪神より聟狩としての人出夥しく、平常閑靜なる土地も一の熱鬧なる處と化するに至れり

口觀心寺　長野停車場より東南廿五丁、南河内郡川上村に在り、古義眞言宗中本山にして槍尾山と號し往古は雲心寺と稱したり、本尊如意輪觀世音菩薩は弘法大師の作なり、照壇に不動、愛染の兩明王を安置す、是亦大師の作にして前者は後醍醐天皇建武元年宮中へ奉迎して、御祈禱あらせられ後者は元來禁中の守本尊たりしが、後村上帝の正平十五年當山に徙し安置せりと傳ふ、而も以上

の三躰は孰れも國寶たり、茲に當山の濫觴を原ぬるに、文武帝の大寶年中、神變大菩薩（役優婆塞小角）の草創なり、當時雲心寺と稱す、厥後弘法大師來りて留錫せられ、觀心寺と改め爾來眞言道場となり、法嫡資道興大師に附屬せらるに宗風を開揚し、寺門を興隆せらる、卽ち當山改宗の開山とす、尋いで嵯峨帝勅願所と爲し給ひ、淳和帝勅して伽藍を造營あらせられ、仁明帝亦官符を下して山林一千五百町及び震翰緣起一卷を寄せ給ふ、爾後歷朝の勅願所として皇家の御崇信頗る渥く、就中南朝の諸帝叡信殊に深く、後醍醐帝嘗て逆徒討滅王業復興の御祈禱あらせられしに、偶當山檀越楠公の誠忠と皇運の隆昌とに因り、建武中興の機運に遭ひ給ひしかば、卽ち首として本堂改造を思し立ち給ひ、楠公に詔して之れが工事を奉行せしめ給ふ、現在の本堂は曩に淳和帝の造營させ給ひし堂宇に、楠公の加工せられしものにして、今や特別保護建造物として政府の保護頗る厚き名刹なり、後村上帝東宮たりし時、奥羽の鎭將となり北畠中將顯家卿供奉して下向し給ふに當り、本堂脇壇安置の弘法大師作不動明王の像を禁內に迎安し、戰勝を祈り給ひ、當時の綸旨及ひ楠公の副狀猶當山に存す幾も莫く正平十四年、楠

正儀和田正武等帝を奉じて、同國錦部郡天野金剛寺の行宮より當山塔中總寺院に移り以て行宮とし、厩兵を河泉の間に出し、京軍に抗す當時坊舍四十有六を有し、大衆常に兵杖を帶して行宮を護り、大に勤王せりといふ、既にして帝崩御し給ひ、聖躬を本堂の後山に殯葬し奉る、檜尾山陵卽ちこれなり、長慶後龜山の二帝も亦御歸依厚く、屢臨幸し給ひし事あり、厥后南北一統し當山は遂に皇室の叡眷を失し、且つ武家の外護を缺くに至り、寺祿亦稍く減じ茲に始て衰頽を觀るに至る、史徵墨寶考証に載する處、當山は始終南朝に勤王し、盛衰を偕にすと寔に至言と謂ふべきなり、後星霜幾多天保八年有栖川宮御祈願所となり、明治十九年內務省より保存資金五百圓を賜はり、同三十一年本堂修繕費金一千六百圓を交附せられたり

一萬三千二百餘圓を下附せられ、同三十二年寶物修繕費金一千六百圓を交附せ

楠氏香花院は、當山塔中にして中院と稱す、而して楠公四世の祖成氏、左兵衞門尉に任せられ當國石川郡水分に住し、千早七郷の地二千八百貫を領す、その子正晴父の冥福を祈らんが爲めに、文永年中當山に一宇を草建す、これを中院の濫觴となす、正晴の子正澄（一に正玄といふ）左衞門尉に任じ、從五位上に叙せらる、正澄の長子俊親早世す、正澄其嗣無きを愁へ、和州信貴山の毘沙門

天に祈り、一子を生む幼名多聞丸、加冠して名を正成と命す、是れ宇内無双の大楠公なり、幼にして頴悟人に過ぐ、正安三年々甫めて八歳、中院に來寓し院主瀧覺坊に就きて經史百家の書を修め、十五歳にして本郡加賀田の處士大江修理亮時親に從ひ兵法武術を學ぶ、加賀田鄉は當山を距ること一里餘、而かも日々通學せられしといふ、既にして學成り故山に還りて父祖の業を紹ぐ、厥後元弘元年後醍醐帝の笠置に行宮を定め給ふに當り、詔に應じて賊を討つに壯み、居館の後山赤阪に城き以て關東の大軍を拒ぐ、當時敵の劫掠を慮りて妻孥を中院に托し、建武中興の日に至る迄曾て妻孥を顧みざりしといふ、吁夏の禹王治水の時家門を過ぐれども入らざりしと倶に聖人の至誠として後世に傳ふべき美談らずや、世の家庭圓滿を說き、將た家庭敎育に腐心する似非君子の僞學者の輩將に愧死すべきにあらずや、尋いで公の兵庫に戰歿せらるゝや、豫め必死を期し襲に帝の賜ふ所の軍陣守護愛染明王の像及び軍刀具足等を、使をして中院に遣り以て紀念とせらる、その歿後賊帥足利尊氏家臣瀨川有隣をして、公の首級を千早城に贈るに及び、公の一族郎等相議して當山境內に葬る、家臣安間七郎生地兵衛之れを督す、後人稱して楠公首塚といふ、現時に至り學生諸子の

來りて、檜尾山陵を拜するもの必ず公の首塚に謁し、公か誠忠日月と光を爭ふの盛德を頌せざるもの莫し、而かも一堆の土坏雨露の侵すに任すを見るに及びては、滂沱低徊顧望去るに忍びざるものあり、公の長子正行公與國年中公の肖像を刻し之れを中院に安置す、這は今猶現存せり、口碑に傳ふ楠公の夫人厥長子正行公四條畷に戰歿するや、薙髮して尼となり其領內甘南備鄉に一草庵を結び、一族の冥福を祈る時人呼んで南妃庵と稱す、正平十九年七月十七日歿す、法名玉山蒲圓尼と號す、庵跡今猶存せりといふ

當山は南朝五十餘年の舊址にして、且つ楠家數代の香花院たる因緣あり、故に楠氏四將の書牘數十通及び南朝の公卿相將の書翰、震筆の古文書類頗る多く國寶に指定されしもの亦甚尠からず、成以て考古家、歷史家及學生諸子の參考に資するに足るものなり、而かも境內別に寶物陳列館を設け、是等無比の寶物を展覽せしむるの便あり、洵に美擧と謂ふべきなり

境內の重なる建造物は

本堂　淳和帝の御創立にして、建武年中後醍醐天皇の外陣を添造し給ひ、楠公の土事を奉行されしもの、后慶長十八年豐臣右大臣秀賴公修理を加へ、片桐東市正且元奉行たり、明治三十年特別保護建造物に指定せらる

塔堂　楠公願主となり、三重塔を造營せんとす、偶湊河戰歿の爲め僅に初重のみの建造に終る、觀者をして無限の感慨に打たれしむるものあり

訶梨帝母天堂、同拜殿　與國五年後村上帝御再建、楠正行工事を董す

殊勝閣　現今寺務所の內佛殿たり

靈應殿　現寺務所として山務を董し、現住和上の方丈亦爰所に在り

中門　以上の三は天正十二年豐公大阪築城の餘材を寄せられ、造營に係るものにして、四脚門古雅の典型なり、楯間蹲踞の力士像は左甚五郎の彫刻なりと傳ふ

舊蹟の重なるものは

楠尾御陵　後村上帝の御陵にして、森嚴の氣自から襟を正さしむ

楠公首塚　大楠公の元を埋葬したる所

道興大師御廟　當山開基實惠大德の墓

寺觀は楠尾山の半腹にありて、石見川その裾を流れ、長野に至りて石川に會す、水源は金剛山より發し、幾多の湍流をなし楠尾山陵の東に於て三大瀑布となる、これを紅葉の瀧と稱す、水聲殷雷の聽くが如く、その最も高もの殆六十尺、四季の觀賞に適し殊に夏季の水浴に妙なり、蓋し觀心寺遊覽客の一樂園たり、而して境內至る所老楠古杉亭々として雲表に聳へ、楠尾山の名寔に虛しからざるを偲ばしむ、その南朝の遺趾と楠公有緣の地を表吊するに方りては、森嚴の氣磅礴として、頑夫も廉に惰夫も志を立つるの概あり而かも其境は靜にし

て、其山は幽なり、山僧の時に梵鐘を鳴らして、山禽を驚かすあり、對岸の丘陵櫻花雲の如く、四山の嫩綠翠嵐を吹き溪間の紅葉宛然燃るに似たり、而して胡枝花所在に嬌姿を現ずるに方りては、更に一層の風趣を添ふ、而かも此地の梅園は一層の風趣あるものにして、河內全州には復見る能はざる名園なり、花香雨ながら美、蓋し當山特有の勝概たり、靈應殿の前栽金松參差枝を交へ、修竹猗々として淸風に戰ぎ、杜鵑の多きを以て近歲に鳴りその裂肺聲の聲往々征人の腸を斷たしむ、而して四邊の溪間三伏の候猶老鶯の嬌舌滑なるを聞き、その後庭の假山は小盧山の趣を爲し泉石の配置悉く古雅にして、背院の構造一見眞個三百有餘年前の昔を偲ばしむ、院主亦善く客を好み、快談歡唔人をして敬慕措く能はざらしむ、吁當山の如きは歷史上の研究資料に豐富なると、四時行樂に適するとを以て、近畿には得難き名勝たらずんばあらず

觀心寺年中行事

一月七日　修正會
二月初午　法會
八月九日　千日法要
毎月十八日　觀音緣日
二月節分　星祭
五月廿五日　楠公祭
八月廿五日　戰死者法要
牛瀧大法會

△觀心寺より楠氏關係の地へ到る路程

金剛山へ百町、千早城趾へ七十丁、赤阪村へ四十丁、水分神社（楠公誕生地）へ四十丁、金胎寺城跡へ三十丁、烏帽子形山城跡へ三十丁

□重なる寶物

一本尊七星如意輪觀音大士（國寶）　一脇士不動明王（國寶）　一脇士愛染明王（國寶）　一試作七星如意輪觀音大士　一八大觀音大士（國寶）　一四天王（國寶）　一金銅佛　一愛染明王（國寶）　一訶梨母天九子像　一聖僧像（國寶）　一大威德天王　一法性塔　一飛行獨鈷杵　一緣起書　一同勝本　一愛染明王畫像　一兩頭明王畫像　一如意輪大小心陀羅尼　一如來荒神書像（國寶）　一大佛頂陀羅尼　一如意輪大小心陀羅尼　一紺紙黃白金泥寫經　一後桃園天皇勅書　一勅施勘錄資財帳（國寶）　一古文書集　一北島親房願文　一古文書集　一豐臣秀吉書翰　一瑪瑙石燈籠　一古文書集（國寶）　一楠正成書翰　一軍旌　一南蠻鐵燈籠　一古銅滅金瓶造花付（其他大楠公所屬の武器類數點

□天野山金剛寺　長野驛より西一里餘南河內郡天野村にあり、眞言宗高野派の巨刹なり、茲にその濫觴を尋ぬるに、當寺は阿育大王鐵塔奉納の勝地、行基菩薩の草創弘法天師修歷の靈跡にして、眞雅僧正禪那の廟洞百王鎭護の名刹なり草創已後四百餘年の星霜を經て稍聖跡頽廢せんとす、後白河法皇の永萬元年高屋朝臣慥貞に勅して、金堂寶塔御影堂の造營を爲させ給ひ、殊に本尊佛舍利御奉納の宣命を賜ふ、復眞如法親王の眞筆なる弘法大師の尊像を御影堂に安置し

此の伽藍を以て國家の鎭護と仰き且つ金剛寺の勅額を樓門に掛けさせ給へり、時に八條內親王帝の叡信を戴想し給ひ常陸國信太莊を僧徒の資糧に寄せられ、以て大衆の威儀法式悉く高野山の舊風を摸し始めて御影供を行はしめ、以て永世の恒規となす、是れに由て當山を女人の高野と稱し四方の敬崇渺なからず、當山の四邊は三好右馬允源貞弘私領の地なりしを、中興開山阿觀僧正の赤心を感じ治承年間に永世寄附するの契券を以てす、然るに其領內には公田多くありしを後白河法皇宣旨を下し、四至を限りて悉く寺領に賜ふ、建久九年三月當寺伽藍諸堂、後白河帝御建立の御由緒を以て、第二の皇子總法務仁和寺御室法親王の御末寺とす、後星霜幾多明治年間に至り特別保護建造物に指定せられたるもの七棟あり、正和三年學頭阿闍梨忍賀大德山中の瑞光を見て、阿育王奉納の鐵塔を感得す、是に於て古佛の聖跡たることを皆信ずるに至れり、元弘三年二品兵部卿護良親王令旨を下して、播州西河井の莊を御祈禱の資に賜ふ、建武二年十二月、後醍醐天皇詔を下して、東寺傳來の佛舍利九粒を當山に納め給ふ、延元二年十月亦叡旨を下して勅願寺となし、皇統の長久を祈らしめ、和泉國大鳥莊を寺領に給ふ而して與國元年、後村上帝同國和田莊を賜ふ、正平七年三月

後村上帝吉野を出て、當山に行幸九年十月南朝の皇居を當寺に徙し塔頭摩尼院を以て行在とし、伽藍の食堂を假に政廳となし給ひ、同十四年十二月迄六ヶ年間の久しき楠左衞門尉正儀、和田和泉守正武等護衞し、且つ軍議を爰に奏聞し奉る、因て此食堂を世に天野殿と稱し今尚現存す、同十年南帝當山に行幸中微若の僧徒に音樂を傳受せしめて、法會の潤色をなさしめ且つ其樂器を納め給ふもの今に存す、正平年間南帝の行在中北朝の光嚴上皇も當山に在して、學頭禪惠法師を戒師とし寺中觀藏院道場に於て鳳姿を沙門衣にかへさせられ、御落飾なし給ひ法諱を惠信法皇と申し奉る、往昔嵯峨帝御灌頂の御時、弘法大師眞筆の兩大曼荼羅を此地に傳來し、本尊に仰ぎ復惠を以て灌頂の國師とし、授法慇懃終に大曼荼羅を當山に納め永く傳法灌頂の本尊となし給ふ、是れに依て後村上帝叡感淺からず、綸旨を下して灌頂院を繼續せしめ、而して泉州大鳥莊を朝用分及播州山田莊を結緣灌頂の料として、四海昇平の御修法を每歲行はしめ給ふ、其餘歷代の、聖主叡信最も篤し、時の盛衰は自然免る能はざる所なりと雖も、足利織田豐臣德川等の將軍家亦篤く當山を守護し、當國の國司亦深く歸依ありけり、後白河帝已來代々綸旨院宣三十九通、右大將賴朝公已來代々武將

令書四十九通、後鳥羽帝建久已來廳宣十五通、楠木正成正行正時正儀及正近等の書翰十四通、東照公台翰二通同制札二通同奉書三通、孰れも御眞筆尙其他極めて多し一々枚擧に遑あらず、抑も當山は元勅願所御朱印地にして、已前は七十餘ヶ寺（舊記及四至の山野寺跡顯然）なるも、現今は僅に六ヶ寺にして尤も由緒あるは現存中の摩尼院にして、正平帝行幸の御時行在所となし玉ふ、觀藏院は北朝光嚴上皇の御落飾道場にあてさせ給ひぬ、其他寺院少數なりと雖ども舊風致上女人高野の名稱空しからず、金堂の三尊は國寶にして明治三十四年中國費修繕あり、本尊は長八尺の座像二脇士は各五尺五寸の座像にして佛師運慶の作なり、多寶塔の本尊は春日佛師の作にして塔內の彩畵は狩野正信の筆、藥師堂本尊は行基菩薩の作日月二光十二神將優にして稀なり、三寶院五智如來は春日佛師の作、御影堂弘法大師眞影は眞如法親王の御筆、兩脇士は不動愛染の兩明王にして作者運慶、此堂の東面に凡五百五十餘年前正平帝當山に鳳輦を駐めさせ給ふ御時、觀月の爲めに建させ給ふ物にして世に觀月の臺と喚ぶものあり今猶現存す、求聞持堂虛空藏菩薩は弘法大師の作、護摩堂本尊は行基菩薩の作中門の二天は作者運慶、同金剛寺の額は、後白河法皇の御震筆、大門の二王は

作者運慶、其他鐘樓社頭尠からず、斯の如き堂塔坊舎は今日迄一千有餘年なれども一時廢頽し、中興後白河法皇御再建、其后慶長十年豊臣秀頼公の修繕、又元祿十三年徳川嚴有公(綱吉公)再修、されば當山の現存建築物は即ち承和年間の古物にして、七百有餘年を經たり、當山の法會は四月廿一日御影供を修行す

口重なる寶物

○不動明王幷二脇士(安磨法印澄賀筆) 一釋迦文殊普賢三尊種子 一阿彌陀如來(宅磨法印筆) 一釋迦如來(張思恭筆) 一法華說法像(巨勢金岡筆) 一法華陀羅尼品像(兆典主筆) 一愛染明王(興敎大師筆) 一大威德明王(鳥羽僧正覺融筆) 一僧形八幡大菩薩(男山行敎和上筆) 一五祕密本尊(國寶十二點之內) 一金堂本尊圖像(同) 一弘決大師眞影(眞如親王御筆) 一法華經開結十卷(光明皇后御筆) 一寶篋印陀羅尼經(國寶) 一寶劍(長二尺一寸三條古銀治宗近作) 一白革威腹卷 一同、一藍革白糸威腹卷、一同(以上五點國寶) 一蒔繪經巻(寺本尊) 一菊水旗(楠家所傳) 一銀鞘守刀(國寶) 一毘沙門天(楠正成守本尊像(長一尺五寸嫡子正行刻彫) 一銀鞘守刀(國寶月山作) 一正成朝臣木像(長

口楠公の軍師大江時親公の遺址 長野停車場より南二十五丁、南河内郡加賀田村にあり、(岩湧山街道)時親公は大江匡房卿七世の孫にして、代々當村に住し修理亮と稱す延慶二年楠公河南の觀心寺に在り、日夕儒學の研究に盡瘁せらる

偶〻時親の兵學に精通せらるゝを聞き、遂に質を委ねて時親の弟子となり、日々一從者を從へ師の許へ通學され、遂に兵法の奥儀に精達するを得たり、斯くて公は我邦無二の兵法家となり、尋いで元弘元年より赤坂、千早兩城に於て關東の大軍を惱ましたるは、世人の普く識る所なり、由來時親は隱君子を以て自任せる隱士なれば、當時及び後年に臻るまで名聲の世に聞ゆるなし、而して楠公の誠忠後世に喧傳せらるゝに方り、人をして公の兵法傳來の淵源を偲ばしむるに到れり

時親の子孫連綿其の血統を繼紹し、現代寅太郎氏及びその父延次郎氏克く父祖の業を襲ぎ家聲を失墜せず、近郷無比の名族を以て卿黨の推す所たり、當代寅太郎氏の父延次郎氏斯る遺址の衰頽に歸するを慨し、其頌德碑を建設せん事を思ひ立ち、有志の贊同を得て明治四十年四月落成せしもの今の碑石即ち是れなり、庭園に枝垂櫻の古株あり、花期に到れば爛熳として咲き亂れ、其風趣掬すべきあり、附近大江恒外山に楠公の城跡(側に辨才天の古堂今尚存す)及納涼の場所と名付世人の口碑に傳ふ處あり(側に楊梅老松等あり)當家の佛書古文書、夥多なる、遊覽者の望みに應じて之を展觀せしむるよし

口加賀田神社　長野停車場より南十二丁南河内郡加賀田村にあり、祭神として本社に譽田別命、息速足姫命、足仲彦命、素盞嗚尊、菅原道眞公を祀る、別に末社二社あり、當社は往昔宇佐八幡宮を勸請せしものにして、豐公の一率行增田右衞門尉長盛深く信仰し御供田を寄進せりと云ふ、勸請の當時より連綿として今に絶へざる氏子を座衆と稱へ、毎年一月八日各裃を着し社頭に於て村内安全の祈願祭を執行し現今に至るも其の異風を存す、社殉は高燥の地に位し閑雅幽邃にして、卽ち社頭の背後は千歳の老樹雲表に聳へ、前方長野三日市の町村は脚下に連り、高野鐵道の列車は長蛇の歩むが如し、東方遙に金剛葛城の連山を仰ぎ尤も四時のながめに富む、春風颯々として來れば境内の櫻花片々として衣袂を撲ち、神花の牡丹又燁然錦繡を織り、炎威赫々たる夏季にありては緑陰清風又掬するに堪ゆ、秋風袂を吹き草木枯色を呈せんとする季に於ては、幾多の蟲聲呂律を和し唧々として詩趣に富み、六花霏々窓を撲つの冬季立ちて、東方を仰げば金剛山は白衣を裝ひて神々しく、大に大楠公の偉大を忍ばしむ、當社祭典は十月十日、十一日、十二日執行す

口藥樹山延命寺　長野停車場より西廿七丁南河内郡川上村字鬼住にあり、眞言

宗御室派、本尊厄除如意輪觀世音（佛工運長の作）護摩堂に毘沙門天、釋迦堂に赤栴檀釋迦如來（丈五尺二寸、毘首揭磨の作にして三國傳來の尊像なり）を安置す、此釋迦如來は日本三體の隨一にして國寶たり、昔弘法大師巡化の砌當地に藥樹草の多く生へたるを見、又靈水の湧出せるを見て、眞言密教を弘むるに適當の靈地なりと感想し給ひ、一寺を創立し、且自ら地藏菩薩を作りて本尊となし、佉羅山寶幢寺と名づけ給へり、其地藏菩薩は今に存して奥の院に安置あり、又其靈水は花井戸と名づけて寺の門前にあり、毎朝此水を汲み閼伽香水として本尊に供養す、世人此の香水を請けて種々の病難を治すと云ふ、其後元祿年間に至り眞言宗の一大偉人、如法眞言律の祖たる淨嚴大和尚此の地に誕生して、寶幢寺の廢頽せるを歎き、京都御室御所の宮殿下に奏して再建の命を受けて之を興し藥樹山延命寺と改稱す、爾來御室別院となり又一派別立して如法眞言律派關西總本山となれり仍て淨嚴和尚を以て如法眞言律の元祖とし亦當山の中興開山と仰げり、淨嚴和尚の學德天下に聞へ德川五代將軍綱吉公の歸依により江戸に上り靈雲寺を創立し始終江戸に在住せしを以て、當山は其上足の弟子蓮譜和尚によりて堂宇の建築を完成せられたり、爾來學德兼備の高僧續出し、法燈蓮綿たり、殊に先住照

遍和尚は明治佛教界の大偉人にして活佛の稱譽ありたり、當山は本多伊豫守代の菩提所にして、本多忠良侯の西代藩となるに及んで、寺領五十石を寄附せられたりしが、本多忠統侯伊勢神戸に引移られしにより、寺祿奉還となれり、又京都三井家の菩提所なり寺祿其他多くの寄附物ありて、祖先代々の靈碑を祭祠す今に當山の大檀越たりと云ふ、境内重なる建物は、本堂、釋迦堂、靈牌堂、鎭守堂、護摩堂、鐘樓、寶藏、經藏等外に數棟あり

境内には梅園あり、櫻樹あり、牡丹あり、藤あり、杜鵑花あり、萩あり、楓樹ありて四時參客の耳目を樂ましむ、若しそれ梅花咲ひ櫻花綻ぶの春の朝、谷間に歌ふ鶯を聞き、杜鳥花咲き初む夏の夜の雲井に叫ぶ時鳥を聞かば忽ち俗腸を洗つて精神の爽快を憶へん、又それ三伏炎熱の夏の晨當山に避暑し池邊を逍遙して河鹿を聞き蓮花の清香を臭ぎ、立田姫紅葉をりなす秋の夕に夕照の紅葉を見て遊園を散歩せば苦悶忽ちに滅して、恰も仙境を辿るが如き感あらしむ、其珍木の重なるものは臥龍梅、夕照楓、棲蛇銀杏の三大樹にして其の最も著名なるは老楓にして河南の一名勝たり紅葉山の一方に遊園を開き亭を設け、且つ門外に花所を建てたり是れ酒肉山門に入るを禁ずるが故に此の設備を爲し以

て參客に便宜を與ふるものなり、次に大布敎塔建築は當時計畫中なりと云ふ又村を稱して鬼住と云ふは往昔鬼の住居せしに因る鬼の盥、鬼の手盥、鬼塚と稱する古跡あり、又鬼退治の弓箭は今猶當寺に存して寶物の隨一たり、古來毎年正月六日村翁等鬼塚と稱する處に集りて鬼退治の古式を行ふ、明治八年頃迄は其古式行はれしも近年は廢しぬ

○寶物　兩界大曼荼羅等曼荼羅部に屬するもの三十二幅、其の中都率内院曼荼羅は聖德太子の御筆にして國寶なり、其の他佛畫祖像等一百七十餘幅あり、内弘法大師の像は惠運僧都の筆なり、惠運僧都は山城安祥寺の開山にして弘法大師と同時代の人なれば、眞正に大師を寫生せられたるものならん、圖上に嵯峨天皇の勅弔の文あり、珍重なる畫像なり、次に孔顔頗る古畫なり、次に唐畫の釋迦如來は監査狀を附す、次に啓書記の釋迦三尊、雲舟の十六羅漢、木兼の涅槃像等は何れも優等の寶物なり、又法器、古經、古文書、書畫等一百餘點あり、次に一切經其他種々の經卷聖典等二百五十九箱畢敎珍本頗る多し

○法會　月並法要は十五日と寅の日は毘沙門天の緣日にして護摩修行十八日は

本尊危除觀音緣日本尊供修行二十日は大師御通夜說敎あり、次に年中行事は一月九日修正會大般若修行、二月三四日節分會星祭修行、三月十五日涅槃會、四月二十一日正御影供、五月八日釋尊誕生會、六月十五日弘法大師誕生會此の日は法要の外大演說會を爲す、六月二十七日開山忌、八月十六日大施餓鬼、十一月七日より十三日迄七日間光明會（一名紅葉會）大法要を修行す、其中正御影供と弘法大師誕生會と光明會とは三大法會なれば參拜者群集す

△御　詠　歌

往昔は鬼の住かときゝつるに今はかはりて御佛ぞすむ

口岩湧山岩湧寺　長野停車場より南八十町南河内郡加賀田村岩湧山にあり、長野極樂寺末にして山號を岩湧山と稱す、文武帝の大寶年中勅願により役優姿塞小角の開基且練行の地なりと云ふ、本尊十一面觀世音菩薩、多寶塔には大日如來を安置す、草創當時は堂塔山中に巍立し法燈の明光海内に輝き頗る旺盛の靈場たりしが、幾多の星霜を經堂塔頽廢に歸したりしを、明治卅四年修築を加へ更に大客殿の築造成り、頗る美觀を添ふ、寺域高燥なるを以て、眺望に富み東南遠く金剛、葛城の高峯蜿々として双眸に映じ、更に眼を轉すれば河泉の山野

を隔て丶、遙に大阪灣の烟波白帆の去來を望み、山中閑寂にして疎々鐘聲を聽くを得べく、岩峽の飛瀑々々として懸下し、盛夏の候玉と碎け、雪と散る之れに對し長嘯すれば、三伏の暑熱は何くへか失せ去り此所斗りは、晩秋の節と異ならざるの感あらしむ

岩湧寺を詠める

たきのいとくりかへしても木がくれに
清き心をすます山寺　　小杉榲邨

口赤坂城址　金剛山の北半腹にあり東南は斷崖三百尺、北に一徑を通す楠公此處に籠り關東八十万の大軍圍み攻むれども屈せず、釣塀、煎砂、巖石落し等の計策を以て軍兵を亡す事幾十万、然るに笠置の行在敗れて援軍なし公徉つて自殺と見せ城を燒て去る其跡今に顯然たり、一の木戸甲取阪軍馬に嵐を防きし屏風塚、出會塚と云ふ、出會は楠公の兵三方より出て東軍を引包んで攻し所、王院の御所と云ふは、主と此に車駕を止めさせられし仮御所の處なりと、何れも慨慨に堪へざる地斗りなり

口楠公誕生地　金剛山の麓水分村領内山の井と云ふ所の田圃の中大將軍の社あ

りて方三間の舊蹟あり公の誕生せられし邸宅也と云ふ

口千早城址　觀心寺後方金剛山の半腹千早村の上方にありて、驛より二里にして達す、山勢巍然として四面深深く、東は百丈西は七十五丈南は八十丈北は三十丈東西の間一徑ありて金剛山上へ攀登る廿八丁、之れ元弘年中楠公の築かれし所、天主の跡は一段高くして古松三株あり、本丸、二の丸の跡は礎石多く殘れり、秘水迹五ヶ所、此の城の周圍にあり風呂谷とて籠城の時數多の停水溜にて燒落し幾千の軍兵を滅したる跡は北の方にあり、城の守護神八幡宮の祠今尚存し左馬頭正儀の墳は本丸迹の巽に五輪あり軍卒戰死塚、躑躅瀧は城山の艮にあり、要害堅固の名城宛しく千載の後をして悵恨に耐へざらしむ、而かも今に狐兎の栖息するに臻りては寔に懷古の情に堪へざるなり

口光瀧寺　長野停車場を距る三里瀧畑村にあり、福玉山と稱す、欽明帝の勅願により、行滿上人の開基後役行者三十六才の時當山に來りて苦行せられしと云ふ、本堂前にある瀧を光の瀧と稱し高サ五拾尺、白虹の間に落下し山神も驚くが如き大瀑布なり、其奥に至れば四十八瀧あり、幽邃清閑にして夏を知らず、

溪流の兩岸楓樹相映じ、當沿線の名勝として又見るべきあり

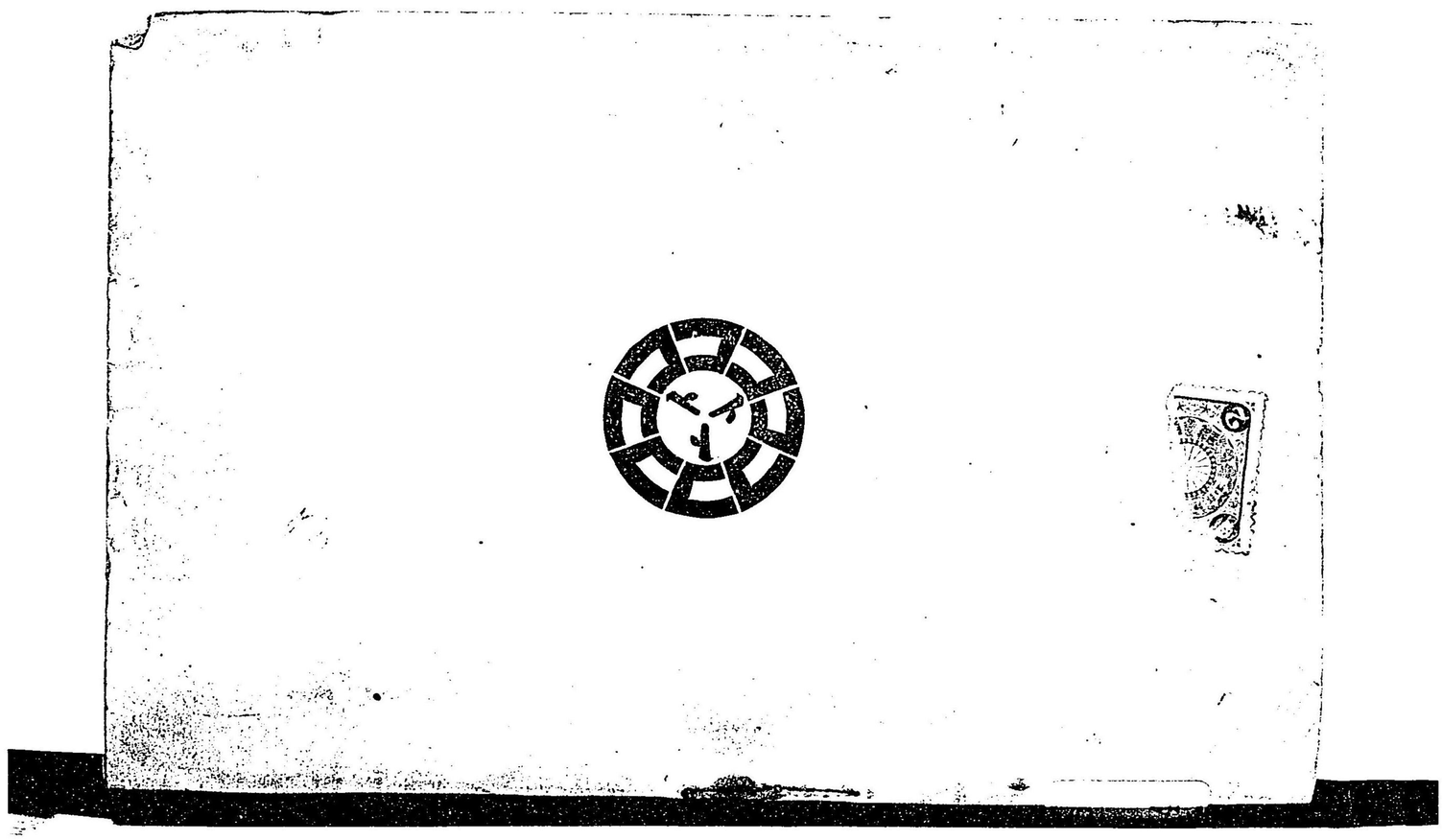
口卷尾山施福寺　光瀧寺より半里東横山大字槇尾山の奥にあり、是ぞ「深山路やいばら松原わけゆけばまきのお寺にこまぞいさめる」の御詠歌と共に聞ゑたる、西國札所の第四番なり、行滿上人の開基なれども創立の年代不詳なり、往昔は眞言宗なりしが寛文年中天台に改宗す、本尊彌勒佛、脇立文殊菩薩、千手觀音を安置す、俱に法海上人靈驗を蒙りて彫刻せられしと云ふ、其後弘法大師來りて沙門勤操に逢よて落髪し、虚空藏求聞持の法を受け、沙彌の十戒を授かり、三輪を究めて當山に籠り、初の名は敎海又如空と改め、延暦十四年東大寺の壇に登りて具足戒を受け、又空海と改められたり、其薙染の黒髪は當山の什寶となり居れり、其の當時は本坊を始め七十餘宇を有し頗る旺盛を極めしが、維新後は大に衰頽を來し本坊外數坊を餘すのみ、併し參詣著の登山益盛にして一日平均二百人以上を算ふるに到れりといふ

口腰上神社　長野遊園地諸越橋を渡り北へ數丁、金胎寺山城址の山麓にあり、此の神は腰病の人祈願をすれば、靈驗顯著なりとて四時參詣の絕ゆる事なしと云ふ

口潮の宮溫泉(錦泉樓)　長野遊園地諸越橋を渡り北へ數町、楠公七遺墨の一なる金胎寺山城趾の山麓、腰上神社の畔、石川の清流に瀆みたる、閑雅幽邃の地にあり、當溫泉の由緒は往昔、天照大神天の岩戸に隱れさせ玉ふ時、人民を救はん爲め日本國中六十ケ所に、鹽泉を湧出させられたる其一なりといふ、泉質は食鹽炭酸泉にして、腸加答兒、胃弱、皮膚病、慢麻質斯、其他諸病に特効ありと、その客室の構造に至つては頗る數奇を盡し、宏壯華麗の風趣に富み、其境は石川の清流脚下に注ぎ、四季共に遊覽の勝地にして、雪月花の眺望はもとより、避暑地として、尤も適當の處なり、又附近に產する鮎、蛍、松茸等は他に其の類を見ざる珍なるものなり、されば四季は勿論其の季節等には清遊の人士頗る多しと云ふ

明治四十四年十二月廿五日印刷
明治四十四年十二月廿八日發行
（定價金十五錢）

不許複製

編輯兼發行人　大阪府西成郡中津町字下三番八番地　筏六郎
印刷者　大阪府西成郡鷺洲町大字大仁一番地　渡邊安一
印刷所　大阪府西成郡鷺洲町大字大仁一番地　博文社
發行所　大阪府西成郡中津町字下三番八番地　咬菜社

268
704